

青柳中学校プール改修工事

図面番号	図 面 名
A - 0	表題・図面リスト
A - 1	改修特記仕様書（１）
A - 2	改修特記仕様書（２）
A - 3	改修特記仕様書（３）
A - 4	改修特記仕様書（４）
A - 5	改修特記仕様書（６）
A - 6	付近見取図、仮設計画図、配置図
A - 7	既存平面図、既存屋上伏図
A - 8	改修平面図・屋上伏図
A - 9	《プール槽、屋上、通路》展開図
A - 10	《プール槽、プールサイド》改修断面図
A - 11	《プール槽、プールサイド》部分詳細図
A - 12	《プール槽、屋上》部分詳細図
A - 13	《付属棟》平面詳細図
A - 14	《付属棟》天井伏図、展開図（１）
A - 15	《付属棟》展開図（２）
A - 16	《付属棟》展開図（３）

記事		 段 建築設計事務所有限公司	〒781-0250 高知市瀬戸2-1-1 高知県知事登録第831号 一級建築士 大臣登録第203220号	TEL&FAX 088-848-1286 徳 廣 賢 一	作成	承認	工事名	青柳中学校プール改修工事	DETE	SCALE	図 番	高知市都市建設部公共建築課			
							図面名	表題・図面リスト	2026.9		A - 0	係	係 長	課長補佐	課 長
															

青柳中学校プール改修工事 特記仕様書		2026.07										
I 工 事 概 要		⑪ 交通誘導警備員										
1. 工事場所 高知市五台山3,923番地		その他の施工条件 ○資機材の搬出入時など、工事関係車両（乗用車も含む）が敷地内を通行する際には、必ず誘導するものをつけ、公道まで徐行すること。 ○登下校時間帯や休み時間等は車両の通行を中止する等必要な配慮をする。 ・ 図示 ・										
2. 工事種目 【プ-ル】 1) プ-ル槽塗装改修 一式 2) プ-ル付什改修 一式 3) 付属棟防水改修 一式 4) 付属棟塗装改修 一式		交通誘導警備員を配置する場合は、原則として警備業法(昭和47年法律第117号)第4条による認定を受けた警備業者の警備員を配置することとし、建設作業員等の他職種の者を従事させないこととする。ただし、一時的な作業等で、安全確保に対処できると監督職員が認めたものについては、この限りでないものとする。										
3. 関連工事等 ・電気設備工事・機械設備工事・ガス設備工事・昇降機設備工事・植栽工事 ・合併処理装置設置工事・外構工事		配置人員等 ・令和 年 月 日から令和 年 月 日までの間は 名常駐する。 ・作業日は 名常駐する。その他監督職員と協議し、適宜配置する。 ○監督職員と協議し、適宜配置する。										
4. 概成工期 ・完成期限の()日前 (令和 年 月 日) 総合試運転調整 ・実施する ・実施しない		配置人員の資格 ・1名以上／1班は交通誘導警備業務に係る検定合格者(1級又は2級)を配置する工事。 ※交通誘導に關し、1名以上／1班は専門的な知識及び技能を有する警備員等を配置する工事。										
5. 部分使用(工事請負契約書第34条第1項) 令和 年 月 日からは、全ての室内部分を使用する。		<table><tr><th>資格</th><th>資 格 要 件</th><th>配置人数</th></tr><tr><td>1, 2級交通誘導警備検定合格者(交通誘導警備員A)</td><td>交通誘導警備に關して、公安委員会が学科及び実施試験を行い、専門的な知識及び技能を有すると認めたもの</td><td>人</td></tr><tr><td>交通誘導に關し、専門的な知識及び技能を有する警備員等(交通誘導警備員B)</td><td>警備業法における指定講習を受講したものの警備業法における基本的基礎教育及び業務別教育(警備業法第2条第1項第2号の警備業務)を現に受けているもので、交通誘導に關する警備業務に従事した期間(実務経験年数)が1年以上であるもの</td><td>6人</td></tr></table> なお、事前に監督職員に検定合格証の写し等の資格要件の確認できる資料を提出する。		資格	資 格 要 件	配置人数	1, 2級交通誘導警備検定合格者(交通誘導警備員A)	交通誘導警備に關して、公安委員会が学科及び実施試験を行い、専門的な知識及び技能を有すると認めたもの	人	交通誘導に關し、専門的な知識及び技能を有する警備員等(交通誘導警備員B)	警備業法における指定講習を受講したものの警備業法における基本的基礎教育及び業務別教育(警備業法第2条第1項第2号の警備業務)を現に受けているもので、交通誘導に關する警備業務に従事した期間(実務経験年数)が1年以上であるもの	6人
資格	資 格 要 件	配置人数										
1, 2級交通誘導警備検定合格者(交通誘導警備員A)	交通誘導警備に關して、公安委員会が学科及び実施試験を行い、専門的な知識及び技能を有すると認めたもの	人										
交通誘導に關し、専門的な知識及び技能を有する警備員等(交通誘導警備員B)	警備業法における指定講習を受講したものの警備業法における基本的基礎教育及び業務別教育(警備業法第2条第1項第2号の警備業務)を現に受けているもので、交通誘導に關する警備業務に従事した期間(実務経験年数)が1年以上であるもの	6人										
II 建 築 工 事 仕 様		⑫ 工事安全計画書										
1. 特記仕様 1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印のつかない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。 3) 特記事項に記載の()内表示番号は、「公共建築工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。 特記事項に記載の[]内表示番号は、「公共建築改修工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。 特記事項に記載の< >内表示番号は、「建築物解体工事共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。		建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に、工事安全計画書を監督職員に提出する。										
2. 適用基準等 図面及び特記事項に記載されていない事項は、全て国土交通省(建設)大臣官房官庁営繕部監修の以下による ・公共建築工事標準仕様書(建築工事編) (令和7年版) ※公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) (令和7年版) ※建築工事標準詳細図 (令和4年版) ・敷地調査共通仕様書 (令和4年版) ・建築物解体工事共通仕様書 (令和4年版)		⑬ 統括安全衛生管理義務者の指名										
3. 「週休2日制工事」の実施について ※対象 (○選択Ⅰ型 ・選択Ⅱ型) 本工事は、工事着手日から工事完成日までの間の土曜日及び日曜日を現場の休工日の基本とする。 「週休2日制工事」の対象工事である。実施にあたっては高知市「週休2日制工事」実施要領(営繕工事編)による。 (https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/123/syukyuhutsuka.html) ・対象外(理由:)		⑭ 発生材の処理										
4. 「猛暑による作業不能日数」の実施について ※対象 ○見込んでいない (理由: ※過去のWBGT値に基づき算定した日数が0日のため ・) ・見込んでいる (作業不能日数: ※現場説明書による ・) ・対象外(理由:)		産業廃棄物の運搬、処分等については、1.3.12により適切に処分するものとし、事前に監督職員に処理計画書を提出する。 産業廃棄物の運搬、あるいは処分を他業者に委託する場合は、書面による委託契約を行い、処理計画書にその写しを添付する。 自己処分場で処分する場合は、その処分場が関係法令の規定に適合する旨の資料を提出し、監督職員の現地立会を受けたうえで承諾を得る。(積替・保管についても同様とする) 産業廃棄物の収集・運搬に当たっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(以下廃棄物処理法という)施行令に基づく車両への表示及び書面の備え付けを行うこと。 また、産業廃棄物を搬出する車両について、処分場ごとに1台のみ写真撮影(現場搬出時及び処分場到着時)し、随時監督職員に報告する。 廃棄物処理法を遵守し、工期内に最終処分(埋立処分、海洋投入処分又は再生)を終了しなければならない。 また、産業廃棄物管理票(以下マニフェストという)により適正に処理されていることを確認するとともに、監督職員にそのE票の写しを提出する。 ただし、廃棄物処理法を遵守した上で、工期内に産業廃棄物の最終処分を終了することが困難な場合で、監督職員が認める場合においては、工期内に中間処理業者への搬入が終了すればよいものとする。この場合、マニフェストにより適正に中間処理業者に搬入されていることを確認するとともに、監督職員にそのB2票の写しを提出する。また、最終処分終了後速やかにE票の写しを提出する。 なお、廃棄物処理法に定める電子情報処理組織を使用する場合は別途協議する。 ・引渡しを要するもの (・) ・現場再利用を図るもの (・) ○再資源化を図るもの (※コンクリート ※木材 ※コンクリート及び鉄から成る建設資材 ※コンクリート ※アスファルトコンクリート)										
5. 「中東情勢の変化等による建設資材の流通状況を踏まえた設計変更」について ※適用する(現場説明書による) ・適用しない		特別管理産業廃棄物の施工計画調査 ※行う ・行わない 分析調査 ※施工計画調査の結果により、監督職員と協議する。 ・行う (・行わない)										
項目 特記事項		⑮ 再生資源利用(促進)計画書及び実施書の提出(請負金額100万円以上)										
一般共通事項		⑯ 工事の保険										
① 工事実績情報システム(コリンズ)への登録(請負金額500万円以上)(受注,変更,完成時)	登録の手続きについては、(一財)日本建設情報総合センターの「建設実績情報のコリンズテクリス登録システム利用規約」による。	工事請負契約後、速やかに工事目的物、工事材料等に生じる損害、第三者に及ぼした損害を補償する保険を締結する。保険期間は、工事着工のときから完成期限より24日後以降までの期間とする。 ※金銭的保証方式 ・ ・有 ○無										
② 情報共有システム	・適用する ※適用しない 機能要件(・現場説明書による ・)	⑰ 契約保証										
③ 遠隔臨場の実施	・適用する ※適用しない 実施内容(・現場説明書による ・)	⑱ 前払金支出割合区分補正										
4 総合工程表	原則、工事の着手に先立ち、別契約関連工事の受注者と協議し、受注者及び別契約関連工事の受注者連名による総合工程表を監督職員に提出する。	⑲ 証明書の提出(グリーン購入法)										
5 総合図	工事の施工に先立ち別契約関連工事の受注者と調整のうえ、総合図を作成し、監督職員に承諾を受ける。	「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(グリーン購入法)及び「高知県グリーン購入基本方針及び実施計画」に基づき、重点調達品目については、積極的に利用すること。なお、重点調達品目の中で木材・木材製品等においては、その原料とされる原木が生産された国における森林に関する法律に照らして合法なものを使用する。										
⑥ 工事日誌	週ごとに工事の全般的な経過及び次週の工事予定を記載した日誌を監督職員に提出する。 また、工事の経過が明確にわかる写真を貼付すること。											
⑦ 工事写真	工事写真はL版程度とし、工事の内容、日付等必要事項を記入し1部提出する。(A4版台紙) 撮影方法は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領(令和5年版)」による。 デジタル工事写真の小黑板情報電子化の実施をする場合は、監督職員の承諾を受ける。 なお、実施については、国営建技第14号(令和5年3月1日付)「デジタル工事写真の小黑板情報電子化について」による。											
⑧ 下請負者の報告	各下請負者については下請負契約前に監督職員に報告する。											
9 電気保安技術者	適用する。											
⑩ 施工条件	施工日及び施工時間 ※1.3.5(1)(7)による。 ・ 施工順序 ・ 図示 工事用車両の駐車場所及び資機材の置場所 ※ 仮囲内 ○ 図示											

②6

特別な材料の工法

公共建築工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督職員の承諾を受けて当該材料製造所の指定する工法による。

27

風圧力

本工事に使用する材料及び工法は、建築基準法に基づき定まる風圧力に対応したものとし、速度圧を求める場合の風速(Vo)及び地表面粗土区分は、次の数値とする。
風速(Vo)： ※ 38m/sec ・ 36m/sec 地表面粗土区分： ※ Ⅲ ・ Ⅱ

②8

仕上面の出隅処理

内外部とも仕上出隅で利用者の手の届く範囲は、図示が無くとも原則として全て面取りを施す。
木部(家具を含む) 6mm程度
コンクリート、モルタル部 20mm程度
鉄部、金属部 3mm程度
建具類等、上記により難い場合は、監督職員と協議する。

29

事業損失補償

※現場説明書による。

③0

完成時の提出図書

・ 完成図(作成範囲 ・ 配置図 ・ 平面図 ・ 立面図 ・ 断面図 ・ 仕上表) [1.9.1][1.9.2]

・ 完成図(CADデータの提出 ※する(CD-R等) ・ しない) [1.9.3]

① 保全に関する資料(提出部数 ※2部 ・ 部) [1.9.3]

上記のほか、使用材料のメーカー名、品番、色(マンセル値等)をCADデータ等で監督職員に提出する。
・ 工種別下請負者の一覧表 [1.9.2]

② 施工図、施工計画書 [1.9.2]

提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

31

完成写真

下表のものを監督職員に提出する。

位 置	分類・規格	撮影枚数	部 数
・ 各室	手札版(L版)	※2枚 ・ 枚	※1部 ・ 部
・ 外部	キャビネ版	※4枚 ・ 枚	※1部 ・ 部
・ 外部	半切パネル(・木製枠※アルミ枠)	※1枚 ・ 枚	※1部 ・ 部
・	スライド	※1部 ・ 部	

カラー・電子データ化(CD-R等)し、すべて提出する。
撮影箇所は監督職員と協議する。
上表のほか、監督職員指示の箇所をデジタルカメラにて撮影し、CD-R等にて提出する。
画像形式等 フォーマット：JPEG 画像サイズ：2816×2112ピクセル以上

32

別途設備工事との取合い

施工範囲

・ 貫通孔、開口部の補強 ※ 下表 ・ 図示

・ 壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ※ 下表 ・ 図示

・ 駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ

・ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強

補 強 種 別	内 容	
貫通孔、開口部の補強	梁	
	壁	
	スラブ	
壁切込み及び補強		
天井切込み及び補強		

③3

撤去部分

コンクリート、モルタル等の撤去部分の境目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする。

③4

不当要求等への対応

暴力団又は暴力団関係者からの不当要求又は工事妨害(以下この文において「不当介入」という。)の排除については次による。

a) 受注者は、暴力団又は暴力団関係者からの工事の施工に関して不当介入を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届出なければならない。

b) 受注者は、不当介入による被害を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届出なければならない。

c) 受注者は、監督職員及び所轄警察署と協力して、不当介入の排除処理を講じなければならない。

d) 受注者が、不当介入の報告を怠った場合は、「高知市競争入札指名停止措置要綱」に基づき、指名停止措置を行うものとする。

35

消防計画

工事の着手にあたり、火災等の災害の予防や、使用部分と工事中の部分の安全を確保するため、別契約の関連工事業者と協議の上、「工事中の消防計画書」を作成し、当該施設の防火管理者の承諾を得て届出を行う。

③6

工事特性等

受注者は、自ら立案した工事特性、創意工夫、社会性等のそれぞれの評価項目について、実施しようとする場合は、事前に計画内容を所定の様式で監督職員に提出する。
また、実施後、工事完成時までに所定の様式に実施状況の分かる図面や状況写真等を添付して監督職員に提出する。

仮設工事(改修)

①

足場その他

内部足場 ※ きゃたつ、足場板等 ・ [2.1.3][2.2.1][表2.2.1]

外部足場 ※ 本足場

外部足場の養生 ※ 図示 ・ 防護シート ・ メッシュシート ・ 防音シート ・ 防音パネル

材料、撤去材の運搬方法 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ①D種 ・ E種

C種の場合 利用可能なエレベーター(※図示 ・)

D種の場合 利用可能な階段(※図示 ・)

・ 屋上防水作業の端部には、墜落防止手摺等墜落の危険を防止する措置を講ずる。

本足場を設ける場合は、公共建築改修工事標準仕様書2.2.1(2)によるほか、足場の組立、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」により行うこと。

②

養生

① 既存部分の養生 ※ ビニルシート、合板等 ・ [2.3.1]

・ 既存家具、既存設備等の養生 ※ ビニルシート等

・ 既存ブラインド、カーテン等の養生、保管場所 ※ 図示

・ 固定された備品等の移動 ※図示

・ 開口部養生 窓等の破損の危険がある工事を行う場合は、施工を行う周辺及びその下部の窓等には、室内に破損物等が飛散しない様、堅固な養生を行う。

3

仮設間仕切り(屋内)

設置箇所 ※ 図示 [2.3.2][表2.3.1]

間仕切り種別 ・ A種 ・ B種 ※ C種

A種、B種の場合

仕上げる材種 ※せつこうボード 厚さ9.5mm ・ 合板(普通合板) 厚さ9.0mm

塗装仕上げ等 ・ 行う ※ 行わない

仮設扉設置箇所 ※ 図示 ・

仮設扉種別 ・ 合板張り木製扉程度 ・ 図示

④

監督職員事務所

・ 設ける (m程度) ※設けない [2.4.1]

5

監督職員の備品等

備品等の設置

備品等の種類	机・椅子	書 棚	黒 板	P C	掛 時 計
数 量	組	台	枚	台	個
備品等の種類	温 度 計	ゴ ム 長 靴	雨 が っ ば	保 護 帽	懐 中 電 灯
数 量	個	足	着	個	個
備品等の種類	衣類ロッカー	冷暖房機器	消 火 器	湯 沸 器	加入電話付属器
数 量	人用	台	個	台	台
備品等の種類	掃 除 具				
数 量	個				

構内既存の施設(用水) ①利用できる (※有償 ・ 無償) ※利用できない

構内既存の施設(電力) ①利用できる (※有償 ・ 無償) ※利用できない

構内既存の施設を利用できる場合で、無償の場合は、下記a)～e)による。
a) 既存設備の水栓等から直接水を使用する場合は、監督職員と協議する。
b) 既存のコンセントから直接電力を使用する場合は、監督職員と協議する。
c) 工事用電源を既存建築物から分岐する場合は、原則、既設分電盤の共用回路のコンセントからとする。なお、接続する回路の負荷状態等を確認し、既設負荷への波及がないようにする。
また、漏電遮断器付コンセント等を使用し、安全の確保を図る。
構内既存の施設を利用できる場合で、有償の場合は、上記a)～c)に下記d)～e)を加える。
d) 工事用水は、既存設備に量水器を設けて、仮設配管を施し使用するものとする。
e) 工事用電力は、原則、既存設備に電力計を設けて、仮設配電盤を設置し、使用するものとする。

四国電力送配電株式会社などの架空線に防護管の設置が必要な場合は、監督職員と協議する。

※図示 ・

⑦

仮囲い

8

仮設物撤去後の整地・跡片付け

※ 原形の復旧
・ 良質土にて設計地盤まで盛土整地する。 範囲(図示) 厚さ() [2.5.1]

防水改修工事

①

降雨等に対する養生方法

※3.1.3(5)による ・ [3.1.3]

2

既存下地の処理

既存下地の補修箇所、範囲、数量等 ※ 図示
設備機器架台、配管受部、パラベット、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部、防水層末端部等の納まり部の処理 ※ 図示(図示のない場合は監督職員と協議による)
・ 製造所の仕様による [3.2.6]

3

アスファルト防水

屋根保護防水

防水層の種別 [3.3.2][3.3.5][表3.3.3～表3.3.6]

工 法	種 別	施工箇所	断熱材の厚さ	絶縁用シート	立上り部の保護
・ P2A	・ A-1			※ドライストレッチM 厚さ0.15mm以上 ・ フラットヤンクロス (70g/㎡程度)	・ 乾式保護材 ・ れんが押え ・ コンクリート押え ・
	・ A-2				
	・ A-3				
・ P1B	・ B-1				
	※B-2				
・ P2AI	・ AI-1		厚さ： ・ mm ・ 図示	※フラットヤンクロス (70g/㎡程度)	
	・ AI-2				
	・ AI-3				
・ P1BI	・ BI-1				
	・ BI-2				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ [3.3.2]
※表3.3.5及び表3.3.6による ・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ [3.3.2]
※表3.3.3から表3.3.4までによる
絶縁工法の材料
・ 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート ・ 砂付あなあきルーフィング
押え金物の材質及び形状 ※ 図示 ・ アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.3.2]

乾式保護材 ・ 窯業系パネル (・ I種 ※Ⅱ種) ・ 金属複合板 [3.3.5]
製造所 評価名称による
立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置 [表3.3.4][表3.3.5]
・ 適用する ・ 適用しない
平場の保護コンクリート [3.3.5]
こて仕上げの場合 ※80mm以上 ・
床タイル張り等仕上げの場合 ※60mm以上 ・
コンクリートの仕上りの平たんさ [3.3.5][表8.1.5]
※a種 ・ b種 ・ c種 ・ 図示 ・
屋上排水溝 [3.3.5]

屋根露出防水
防水層の種別 [3.3.2][表3.3.7～表3.3.9]

工 法	種 別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		備 考
				種 類	使 用 量	
・ M4C	・ C-1			・ 高日射 反射率 塗料の 適用	※ 製造所 の指定 による	
	・ C-2					
	・ C-3					
	・ C-4					
・ M3D	・ D-1			・ 高日射 反射率 塗料の 適用	※ 製造所 の指定 による	
	・ D-2					

4

改質アスファルトシート防水

防水層の種別 [3.4.2][表3.4.1～表3.4.3]

工 法	種 別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		備 考
				種 類	使 用 量	
・ M4AS	・ AS-T1			・ 高日射 反射率 塗料の 適用	※ 製造所 の指定 による	
	・ AS-T2					
	・ AS-J2					
・ M3AS ・ POAS	・ AS-T3			・ 高日射 反射率 塗料の 適用	※ 製造所 の指定 による	
	・ AS-T4					
	・ AS-J1					
・ M3AS ・ POAS	・ AS-J3			・ 高日射 反射率 塗料の 適用	※ 製造所 の指定 による	
・ M3ASI ・ M4ASI ・ POASI	・ ASI-T1		JIS A 9521に基づく 発泡プラスチック断熱材 種類： ※硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号又は2号 ・ 厚さ： ・ mm ・ 図示	・ 高日射 反射率 塗料の 適用	※ 製造所 の指定 による	
	・ ASI-J1					

露出防水層表面の仕上げ塗装除去 ・ 行う ・ 行わない [3.2.6]
改質アスファルトシートの種類及び厚さ [3.4.2]
※表3.4.1から表3.4.3による
粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ [3.4.2]
※表3.4.1から表3.4.3による
押え金物の材質及び形状 ※ 図示 ・ アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.4.2]

脱気装置の種類及び設置数量 ※ 製造所の指定とする [3.4.3]

5

合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種別 [3.5.2][表3.5.1～表3.5.3]

工 法	種 別	施工箇所	厚さ(mm)	仕上塗料		高日射反射率塗料の適用	備 考
				種 類	使 用 量		
・ P0S ・ S4S	・ S-F1		※1.2 ・ 2.0 ・ 1.5	※ 製造所の仕様による	・	改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない	
	・ S-M1						
	・ S-M2						
・ S3S	・ S-F1		※1.2 ・ 2.0	※ 製造所の仕様による	・	改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない	
	・ S-F2						
・ M4S	・ S-M1		※1.5 ・ 2.0	※ 製造所の仕様による	・	改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない	
	・ S-M2						
・ P0SI ・ S3SI ・ S4SI ・ M4SI	・ SI-F1		※1.2 ・ 1.5 ・ 2.0	※ 製造所の仕様による	・	改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない	
	・ SI-F2						
	・ SI-M1						
	・ SI-M2						
・ P1S	・ S-C1		※1.0		・	立上り保護 モルタルの塗布 ・ 図示 ・ 7mm	

断熱工法に用いる断熱材 (SI-F1、SI-F2、SI-M1、SI-M2の場合) [3.5.2]

工 法	材 料	厚 さ
機械的固定工法	JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材 種類： ※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号	・ 図示
接着工法	JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類： ※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号	・ 図示

記 事		 段 建築設計事務所 有限会社	〒781-0250 高知市瀬戸2-1-1 高知県知事登録第831号 一級建築士 大臣登録第203220号 徳 廣 賢 一	TEL&FAX 088-848-1286	作 成	承 認	工事名	青柳中学校プール改修工事	DETE	SCALE	図 番	高知市都市建設部公共建築課				
													係	係 長	課長補佐	課 長
							図面名	改修特記仕様書（２）	2026.9		A - 2					

項目		特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																																																			
6	塗膜防水	ルーフィングトシートの種類 ※表3.5.1～表3.5.3までによる 立上り部等の防水層撤去 ・ 行う ・ 行わない [表3.1.1] 立上り部等の保護層撤去 ・ 行う ・ 行わない POS工法及びPOSI工法(機械的固定工法)の立上り部等の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした場合の既存防水層の処理 ※3.2.6(4)(ウ)(g)による [3.5.2] 固定金具の材質及び形状 材質 ※防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板またはそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの ・ 厚さ(mm) ※0.4以上 S-M1及びS-M2の絶縁用シート及び可塑性移行防止用シートの材質 [3.5.2] ※発泡ポリエチレンシート 脱気装置の種類及び設置数量 ※製造所の仕様による [3.5.3] 歩行の仕様 [表3.5.1] ※ 非歩行用 ・ 軽歩行用 (施工箇所:) SI-M1及びSI-M2の防湿用フィルムの設置 ※設けない ・ 設ける [表3.5.2] プレキャストコンクリート下地の目地処理(接着工法の場合) ・ 行う (・ 図示 ・) ・ 行わない [3.5.4] S-F1及びSI-F1のプレキャストコンクリート下地の入隅部増張り ・ 行う (・ 図示 ・) ・ 行わない [3.5.4] 一般部のルーフィングシートの張付けで機械的固定工法の場合 建築基準法に基づく風圧力の(※1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法	① 材料品質	外壁改修工事(共通事項) 可とう性エポキシ樹脂 [4.2.4] JIS A 6024による。 <table><tr><th>比重</th><th>押出し性(秒)</th><th>スランプ(Mm)</th><th>質量変化率(%)</th><th>引張り強さ(MPa)</th><th>破断時伸び(%)</th><th>引張り接着性</th></tr><tr><td rowspan="3">表示値±0.10</td><td rowspan="3">60以下</td><td rowspan="3">3.0以下</td><td rowspan="3">5.0以下</td><td>標準 1.0以上</td><td>標準 30.0以上</td><td rowspan="3">最大引張強さ1.0MPa以上 破断時の伸び10.0%以上</td></tr><tr><td>低温 1.0以上</td><td>低温 30.0以上</td></tr><tr><td>加熱劣化1.0以上</td><td>加熱劣化30.0以上</td></tr></table> 1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。 バテ状エポキシ樹脂 [4.2.4] JIS A 6024による。 <table><tr><th>初期硬化性(MPa)</th><th>接着強さ(MPa)</th><th>圧縮強さ(MPa)</th><th>曲げ強さ(MPa)</th><th>硬化収縮率(%)</th></tr><tr><td>標準2.0以上</td><td>標準6.0以上</td><td>50.0以上</td><td>30.0以上</td><td>3.0以下</td></tr></table> 1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。 4)試験方法は、JIS A 6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)に準じる。 エポキシ樹脂モルタル [4.2.4] JIS A 6024による。 <table><tr><th>だれ</th><th>接着強さ(MPa)</th><th>圧縮強さ(MPa)</th><th>曲げ強さ(MPa)</th></tr><tr><td>形状に異常がなく、 だれが生じないこと</td><td>1.0以上</td><td>20.0以上</td><td>10.0以上 (3日後の値)</td></tr></table> 1)こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。 2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 3)「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 4)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目の規定に適合していること。	比重	押出し性(秒)	スランプ(Mm)	質量変化率(%)	引張り強さ(MPa)	破断時伸び(%)	引張り接着性	表示値±0.10	60以下	3.0以下	5.0以下	標準 1.0以上	標準 30.0以上	最大引張強さ1.0MPa以上 破断時の伸び10.0%以上	低温 1.0以上	低温 30.0以上	加熱劣化1.0以上	加熱劣化30.0以上	初期硬化性(MPa)	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)	硬化収縮率(%)	標準2.0以上	標準6.0以上	50.0以上	30.0以上	3.0以下	だれ	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)	形状に異常がなく、 だれが生じないこと	1.0以上	20.0以上	10.0以上 (3日後の値)	② 欠損部改修	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ ① ひび割れ部改修	⑧樹脂注入工法 [4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0以下</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様・130</td></tr><tr><td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>・ 100～200</td><td>※70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0以下</td><td>・ 150～250</td><td>※130</td></tr></table> コア抜き検査 ※行わない ・ 行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) コア抜き部の補修方法 ○Uカットシーリング材充填工法 [4.2.6][4.3.7] ○シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない ・ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・ バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂 ※ 充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル ・ モルタル塗替え工法 [4.3.10] 仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※ステンレス製アンカーピン縦横φ200打込、ステンレス製ラス等張り ・ 図示	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様・130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・ 100～200	※70		0.5以上1.0以下	・ 150～250	※130																																																										
		比重	押出し性(秒)	スランプ(Mm)	質量変化率(%)	引張り強さ(MPa)	破断時伸び(%)	引張り接着性																																																																																																																	
表示値±0.10	60以下	3.0以下	5.0以下	標準 1.0以上	標準 30.0以上	最大引張強さ1.0MPa以上 破断時の伸び10.0%以上																																																																																																																			
				低温 1.0以上	低温 30.0以上																																																																																																																				
				加熱劣化1.0以上	加熱劣化30.0以上																																																																																																																				
初期硬化性(MPa)	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)	硬化収縮率(%)																																																																																																																					
標準2.0以上	標準6.0以上	50.0以上	30.0以上	3.0以下																																																																																																																					
だれ	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)																																																																																																																						
形状に異常がなく、 だれが生じないこと	1.0以上	20.0以上	10.0以上 (3日後の値)																																																																																																																						
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																																																						
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様・130																																																																																																																						
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																																																						
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・ 100～200	※70																																																																																																																						
	0.5以上1.0以下	・ 150～250	※130																																																																																																																						
7	FRP防水	防水層の種類 [3.6.3][表3.6.1～表3.6.3] <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>仕上塗料の種類</th><th>使用量</th><th>高日射反射率塗料の適用</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・ X-1 ・ X-1H ○ X-2 ・ X-2H ※ Y-2</td><td rowspan="2">図示</td><td>※ 2成分形アクリル樹脂系 ・ ふっ素樹脂系 ・ アクリルシリコン樹脂系</td><td>※製造所の仕様による</td><td></td><td>改修用ドレン ○設ける ・ 設けない</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 絶縁工法における脱気装置の種類及び設置数量 ※主材料の製造所の仕様による ・ [3.6.3] ウレタン防水材 ※化学物質MOCAを含有しないもの PIV工法又はP2Y工法の保護層の仕様 ※図示 ガラスマット ・ 1層タイプ ・ 2層タイプ 表面の仕上げ ・ 平滑 ・ 粗面 押え金物の材質 ※アルミニウム 押え金物の寸法 ※図示 ・	種別	施工箇所	仕上塗料の種類	使用量	高日射反射率塗料の適用	備 考	・ X-1 ・ X-1H ○ X-2 ・ X-2H ※ Y-2	図示	※ 2成分形アクリル樹脂系 ・ ふっ素樹脂系 ・ アクリルシリコン樹脂系	※製造所の仕様による		改修用ドレン ○設ける ・ 設けない						② シーリング	シーリング改修工法の種類 [3.1.4][3.7.4～3.7.7][表3.1.2] ○シーリング充填工法 ○シーリング再充填工法 ・ 拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法 ・ エッジング材張り ・ 適用する [3.7.7] シーリング材の種類、施工箇所 [3.1.4][3.7.2][表3.7.1] ※下表による(下表以外は表3.7.1による) <table><tr><th>種類(記号)</th><th>主成分による区分</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>○SR-1 ・ SR-2</td><td>シリコーン系 (「グ」用 防~~び~~「イ」)</td><td>「グ」槽底部、「グ」槽廻り</td></tr><tr><td>○MS-2</td><td>変成シリコーン系</td><td>洗眼シ~~ン~~ク、建具廻り、フィス足元、手摺足元、塗膜防水端部</td></tr><tr><td>・ PS-2</td><td>ポリサルファイド系</td><td></td></tr><tr><td>○PU-2 ・</td><td>ポリウレタン系</td><td>目地部</td></tr></table> 仕上げを行わない箇所 () [表3.7.1] シーリング材の目地寸法 [3.7.3] <table><tr><th>箇所</th><th>打継ぎ/ひび割れ誘発目地</th><th>ガラス回りの目地</th><th>左記以外の目地</th></tr><tr><td>幅(mm)</td><td>※ 20以上 ・</td><td>※幅及び深さ5以上</td><td>※ 10以上 ○ 図示</td></tr><tr><td>深さ(mm)</td><td>※ 10以上 ・</td><td>[5.13.3]による場合を除く</td><td>※ 10以上 ○ 図示</td></tr></table> 接着性試験 [3.7.8] ※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験 材料 [3.8.2][表3.8.1] <table><tr><th>材 種</th><th>寸 法</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td><td></td><td>※ たてどい</td></tr><tr><td>○ 硬質ポリ塩化ビニル管カラー(ｶﾗｰVP)</td><td>Φ100</td><td>※ たてどい</td></tr><tr><td>・ 硬質塩化ビニル雨どい</td><td></td><td>※ 軒どい ・ たてどい</td></tr></table> とい受金物及び足金物の材質、形状及び取付け間隔 [3.8.2] 材質: ※ステンレス製 ・ 溶融亜鉛めっき その他: ※表3.8.2による 防露材のホルムアルデヒド放出量 ※ F☆☆☆☆ 既存のといその他の撤去 ※ 図示 降雨等に対する養生方法 ※ 監督職員と協議による ・ 図示 銅管製といの防露巻き ・ 表3.8.4による たてどい受金物の取付け ・ 図示 ルーフドレンの取付け ・ 水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する。	種類(記号)	主成分による区分	施 工 箇 所	○SR-1 ・ SR-2	シリコーン系 (「 グ 」用 防 ~~び~~ 「 イ 」)	「 グ 」槽底部、「 グ 」槽廻り	○MS-2	変成シリコーン系	洗眼シ ~~ン~~ ク、建具廻り、 フ ィス足元、手摺足元、塗膜防水端部	・ PS-2	ポリサルファイド系		○PU-2 ・	ポリウレタン系	目地部	箇所	打継ぎ/ひび割れ誘発目地	ガラス回りの目地	左記以外の目地	幅(mm)	※ 20以上 ・	※幅及び深さ5以上	※ 10以上 ○ 図示	深さ(mm)	※ 10以上 ・	[5.13.3]による場合を除く	※ 10以上 ○ 図示	材 種	寸 法	施 工 箇 所	・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)		※ たてどい	○ 硬質ポリ塩化ビニル管カラー(ｶﾗｰVP)	Φ100	※ たてどい	・ 硬質塩化ビニル雨どい		※ 軒どい ・ たてどい	① 材料品質	外壁改修工事(共通事項) 可とう性エポキシ樹脂 [4.2.4] JIS A 6024による。 <table><tr><th>比重</th><th>押出し性(秒)</th><th>スランプ(Mm)</th><th>質量変化率(%)</th><th>引張り強さ(MPa)</th><th>破断時伸び(%)</th><th>引張り接着性</th></tr><tr><td rowspan="3">表示値±0.10</td><td rowspan="3">60以下</td><td rowspan="3">3.0以下</td><td rowspan="3">5.0以下</td><td>標準 1.0以上</td><td>標準 30.0以上</td><td rowspan="3">最大引張強さ1.0MPa以上 破断時の伸び10.0%以上</td></tr><tr><td>低温 1.0以上</td><td>低温 30.0以上</td></tr><tr><td>加熱劣化1.0以上</td><td>加熱劣化30.0以上</td></tr></table> 1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。 バテ状エポキシ樹脂 [4.2.4] JIS A 6024による。 <table><tr><th>初期硬化性(MPa)</th><th>接着強さ(MPa)</th><th>圧縮強さ(MPa)</th><th>曲げ強さ(MPa)</th><th>硬化収縮率(%)</th></tr><tr><td>標準2.0以上</td><td>標準6.0以上</td><td>50.0以上</td><td>30.0以上</td><td>3.0以下</td></tr></table> 1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。 4)試験方法は、JIS A 6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)に準じる。 エポキシ樹脂モルタル [4.2.4] JIS A 6024による。 <table><tr><th>だれ</th><th>接着強さ(MPa)</th><th>圧縮強さ(MPa)</th><th>曲げ強さ(MPa)</th></tr><tr><td>形状に異常がなく、 だれが生じないこと</td><td>1.0以上</td><td>20.0以上</td><td>10.0以上 (3日後の値)</td></tr></table> 1)こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。 2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 3)「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 4)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目の規定に適合していること。	比重	押出し性(秒)	スランプ(Mm)	質量変化率(%)	引張り強さ(MPa)	破断時伸び(%)	引張り接着性	表示値±0.10	60以下	3.0以下	5.0以下	標準 1.0以上	標準 30.0以上	最大引張強さ1.0MPa以上 破断時の伸び10.0%以上	低温 1.0以上	低温 30.0以上	加熱劣化1.0以上	加熱劣化30.0以上	初期硬化性(MPa)	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)	硬化収縮率(%)	標準2.0以上	標準6.0以上	50.0以上	30.0以上	3.0以下	だれ	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)	形状に異常がなく、 だれが生じないこと	1.0以上	20.0以上	10.0以上 (3日後の値)	② 欠損部改修	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ ① ひび割れ部改修	⑧樹脂注入工法 [4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0以下</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様・130</td></tr><tr><td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>・ 100～200</td><td>※70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0以下</td><td>・ 150～250</td><td>※130</td></tr></table> コア抜き検査 ※行わない ・ 行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) コア抜き部の補修方法 ○Uカットシーリング材充填工法 [4.2.6] ○シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない ・ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 [4.2.7] ・ バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂 ※ 充填工法 [4.2.8] ※エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様・130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・ 100～200	※70		0.5以上1.0以下	・ 150～250	※130
種別	施工箇所	仕上塗料の種類	使用量	高日射反射率塗料の適用	備 考																																																																																																																				
・ X-1 ・ X-1H ○ X-2 ・ X-2H ※ Y-2	図示	※ 2成分形アクリル樹脂系 ・ ふっ素樹脂系 ・ アクリルシリコン樹脂系	※製造所の仕様による		改修用ドレン ○設ける ・ 設けない																																																																																																																				
種類(記号)	主成分による区分	施 工 箇 所																																																																																																																							
○SR-1 ・ SR-2	シリコーン系 (「 グ 」用 防 ~~び~~ 「 イ 」)	「 グ 」槽底部、「 グ 」槽廻り																																																																																																																							
○MS-2	変成シリコーン系	洗眼シ ~~ン~~ ク、建具廻り、 フ ィス足元、手摺足元、塗膜防水端部																																																																																																																							
・ PS-2	ポリサルファイド系																																																																																																																								
○PU-2 ・	ポリウレタン系	目地部																																																																																																																							
箇所	打継ぎ/ひび割れ誘発目地	ガラス回りの目地	左記以外の目地																																																																																																																						
幅(mm)	※ 20以上 ・	※幅及び深さ5以上	※ 10以上 ○ 図示																																																																																																																						
深さ(mm)	※ 10以上 ・	[5.13.3]による場合を除く	※ 10以上 ○ 図示																																																																																																																						
材 種	寸 法	施 工 箇 所																																																																																																																							
・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)		※ たてどい																																																																																																																							
○ 硬質ポリ塩化ビニル管カラー(ｶﾗｰVP)	Φ100	※ たてどい																																																																																																																							
・ 硬質塩化ビニル雨どい		※ 軒どい ・ たてどい																																																																																																																							
比重	押出し性(秒)	スランプ(Mm)	質量変化率(%)	引張り強さ(MPa)	破断時伸び(%)	引張り接着性																																																																																																																			
表示値±0.10	60以下	3.0以下	5.0以下	標準 1.0以上	標準 30.0以上	最大引張強さ1.0MPa以上 破断時の伸び10.0%以上																																																																																																																			
				低温 1.0以上	低温 30.0以上																																																																																																																				
				加熱劣化1.0以上	加熱劣化30.0以上																																																																																																																				
初期硬化性(MPa)	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)	硬化収縮率(%)																																																																																																																					
標準2.0以上	標準6.0以上	50.0以上	30.0以上	3.0以下																																																																																																																					
だれ	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)																																																																																																																						
形状に異常がなく、 だれが生じないこと	1.0以上	20.0以上	10.0以上 (3日後の値)																																																																																																																						
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																																																						
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様・130																																																																																																																						
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																																																						
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・ 100～200	※70																																																																																																																						
	0.5以上1.0以下	・ 150～250	※130																																																																																																																						
9	とい	材料 [3.8.2][表3.8.1] <table><tr><th>材 種</th><th>寸 法</th><th>施 工 箇 所</th></tr><tr><td>・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td><td></td><td>※ たてどい</td></tr><tr><td>○ 硬質ポリ塩化ビニル管カラー(ｶﾗｰVP)</td><td>Φ100</td><td>※ たてどい</td></tr><tr><td>・ 硬質塩化ビニル雨どい</td><td></td><td>※ 軒どい ・ たてどい</td></tr></table> とい受金物及び足金物の材質、形状及び取付け間隔 [3.8.2] 材質: ※ステンレス製 ・ 溶融亜鉛めっき その他: ※表3.8.2による 防露材のホルムアルデヒド放出量 ※ F☆☆☆☆ 既存のといその他の撤去 ※ 図示 降雨等に対する養生方法 ※ 監督職員と協議による ・ 図示 銅管製といの防露巻き ・ 表3.8.4による たてどい受金物の取付け ・ 図示 ルーフドレンの取付け ・ 水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する。	材 種	寸 法	施 工 箇 所	・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)		※ たてどい	○ 硬質ポリ塩化ビニル管カラー(ｶﾗｰVP)	Φ100	※ たてどい	・ 硬質塩化ビニル雨どい		※ 軒どい ・ たてどい	① ひび割れ部改修	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ ① ひび割れ部改修	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ ① ひび割れ部改修	⑧樹脂注入工法 [4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0以下</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様・130</td></tr><tr><td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>・ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>・ 100～200</td><td>※70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0以下</td><td>・ 150～250</td><td>※130</td></tr></table> コア抜き検査 ※行わない ・ 行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) コア抜き部の補修方法 ○Uカットシーリング材充填工法 [4.2.6] ○シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない ・ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 [4.2.7] ・ バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂 ※ 充填工法 [4.2.8] ※エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様・130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・ 100～200	※70		0.5以上1.0以下	・ 150～250	※130																																																																																			
材 種	寸 法	施 工 箇 所																																																																																																																							
・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)		※ たてどい																																																																																																																							
○ 硬質ポリ塩化ビニル管カラー(ｶﾗｰVP)	Φ100	※ たてどい																																																																																																																							
・ 硬質塩化ビニル雨どい		※ 軒どい ・ たてどい																																																																																																																							
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																																																						
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※ 200～300	※製造所の仕様・130																																																																																																																						
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50～100	※40																																																																																																																						
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・ 100～200	※70																																																																																																																						
	0.5以上1.0以下	・ 150～250	※130																																																																																																																						
10	アルミニウム製笠木	種類 ・ オープン形式 (・ 押出250形 ・ 押出300形 ・ 押出350形) [3.9.2][表3.9.1] ・ 板材折曲げ形 (・ オープン形式 ・ シール形式) 本体幅()mm 板厚(※2.0)mm 表面処理 種別 表5.2.2による () 種 色合い等 ※標準色 既存の笠木等の撤去 ・ 行う(範囲 ※図示 ・) ・ 行わない ・ 一時取外し再取付け[3.9.3] 新規アルミニウム製笠木の下地の補修工法 ※ 図示 板材折曲げ形笠木の取付方法 ※ 図示 笠木の固定金具の固定工法 建築基準法に基づく風圧力の(※1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法	② 欠損部改修	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ ① ひび割れ部改修 ② 欠損部改修	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ ① ひび割れ部改修 ② 欠損部改修 ③ 浮き部改修	⑧樹脂注入工法 [4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様・130</td></tr><tr><td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>※ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>※ 100～200</td><td>※70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0以下</td><td>※ 150～250</td><td>※130</td></tr></table> コア抜き検査 ※行わない ・ 行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) コア抜き部の補修方法 ○Uカットシーリング材充填工法 [4.2.6] ○シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない ・ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 [4.2.7] ・ バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂 ※ 充填工法 [4.2.8] ※エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様・130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※ 50～100	※40	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	※ 100～200	※70		0.5以上1.0以下	※ 150～250	※130																																																																																															
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																																																						
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様・130																																																																																																																						
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※ 50～100	※40																																																																																																																						
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	※ 100～200	※70																																																																																																																						
	0.5以上1.0以下	※ 150～250	※130																																																																																																																						
11	保証書 (シーリング除く)	受注者、施工者、材料製造所連名による 10 年保証(完成届提出日より15日後から)	② 欠損部改修	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ ① ひび割れ部改修 ② 欠損部改修 ③ 浮き部改修	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ ① ひび割れ部改修 ② 欠損部改修 ③ 浮き部改修	⑧樹脂注入工法 [4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様・130</td></tr><tr><td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>※ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>※ 100～200</td><td>※70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0以下</td><td>※ 150～250</td><td>※130</td></tr></table> コア抜き検査 ※行わない ・ 行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) コア抜き部の補修方法 ○Uカットシーリング材充填工法 [4.2.6] ○シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない ・ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 [4.2.7] ・ バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂 ※ 充填工法 [4.2.8] ※エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様・130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※ 50～100	※40	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	※ 100～200	※70		0.5以上1.0以下	※ 150～250	※130																																																																																															
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																																																						
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様・130																																																																																																																						
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※ 50～100	※40																																																																																																																						
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	※ 100～200	※70																																																																																																																						
	0.5以上1.0以下	※ 150～250	※130																																																																																																																						
12	高日射反射率塗料塗り	JIS K 5675(屋根用高日射反射率塗料)に適合するもの、または、グリーン購入法の高日射反射率防水に適合する保護塗料とする。	② 欠損部改修	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ ① ひび割れ部改修 ② 欠損部改修 ③ 浮き部改修	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ ① ひび割れ部改修 ② 欠損部改修 ③ 浮き部改修	⑧樹脂注入工法 [4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様・130</td></tr><tr><td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>※ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>※ 100～200</td><td>※70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0以下</td><td>※ 150～250</td><td>※130</td></tr></table> コア抜き検査 ※行わない ・ 行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) コア抜き部の補修方法 ○Uカットシーリング材充填工法 [4.2.6] ○シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・ 行わない ・ 可とう性エポキシ樹脂 ・ シール工法 [4.2.7] ・ バテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂 ※ 充填工法 [4.2.8] ※エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様・130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※ 50～100	※40	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	※ 100～200	※70		0.5以上1.0以下	※ 150～250	※130																																																																																															
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																																																						
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様・130																																																																																																																						
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※ 50～100	※40																																																																																																																						
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	※ 100～200	※70																																																																																																																						
	0.5以上1.0以下	※ 150～250	※130																																																																																																																						
12	高日射反射率塗料塗り	JIS K 5675(屋根用高日射反射率塗料)に適合するもの、または、グリーン購入法の高日射反射率防水に適合する保護塗料とする。	② 欠損部改修	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ ① ひび割れ部改修 ② 欠損部改修 ③ 浮き部改修	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ ① ひび割れ部改修 ② 欠損部改修 ③ 浮き部改修	⑧樹脂注入工法 [4.2.5(1)～(5)][4.3.6] <table><tr><th>種 類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量(mL/m)</th></tr><tr><td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上1.0未満</td><td>※ 200～300</td><td>※製造所の仕様・130</td></tr><tr><td>・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上0.3未満</td><td>※ 50～100</td><td>※40</td></tr><tr><td>・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.3以上0.5未満</td><td>※ 100～200</td><td>※70</td></tr><tr><td></td><td>0.5以上1.0以下</td><td>※ 150～250</td><td>※130</td></tr></table> コア抜き検査 ※行わない ・ 行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による) コア抜き部の補修方法 ○Uカットシーリング材充填工法 [4.2.6] ○シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセ	種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様・130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※ 50～100	※40	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	※ 100～200	※70		0.5以上1.0以下	※ 150～250	※130																																																																																															
種 類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																																																						
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※ 200～300	※製造所の仕様・130																																																																																																																						
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	※ 50～100	※40																																																																																																																						
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	※ 100～200	※70																																																																																																																						
	0.5以上1.0以下	※ 150～250	※130																																																																																																																						

項 目			特 記 事 項			項 目			特 記 事 項			
4	浮き部改修	・有機系接着剤によるタイル張り タイルの種類 () 目地詰め ・行う () ・行わない ()	[4.4.8]			塗装改修工事			① 一般事項			
		・下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ※目荒し工法	[4.3.11～16][4.4.9～4.4.15]			② 下地調整			① 軽量鉄骨天井下地			
		改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	アンカーピンの本数		注入口の箇所数		備考		野縁等の種類 [6.6.2][表6.6.1]			
		・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	※5 ・	— ・	— ・	— ・	注 入 量 ※25mL	野縁等の間隔 [6.6.3][表6.6.2]		
5	目地改修	・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※5 ・	※12 ・	※20 ・	※5 ・	注 入 量 ※25mL	新規天井下地のつりボルト受け等のインサート及びあと施工アンカー [6.6.4]		
		・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※13 ・	※20 ・	※5 ・	※12 ・	※20 ・	※5 ・	注 入 量 ※50mL	※既存の埋込みインサートを使用する ・新たにつりボルト用あと施工アンカーを設ける		
		・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※5 ・	— ・	— ・	— ・	注 入 量 ※25mL	つりボルトの引張試験 試験箇所数及び確認強度は6.6.4(7) による		
		・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※5 ・	※9 ・	※16 ・	※5 ・	注 入 量 ※25mL	屋内 ※行う ・行わない 屋外 ※行う ・行わない		
外壁改修工事 仕上げ塗材仕上げ	① 既存塗膜等の除去及び 下地処理	・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※9 ・	※16 ・	※5 ・	※9 ・	※16 ・	※5 ・	注 入 量 ※50mL	・耐風圧性を考慮した補強 [6.6.4]		
		・注入口付アンカーピンニング エポキシ樹脂注入タイル固定工法	・	・	・	— ・	— ・	— ・	注 入 量 ※25mL	適用箇所：※図示 ・ 補強方法：※図示 ・		
		アンカーピン	[4.3.5]			③ 素地ごしらえ			② (天井、壁仕上げ) せつこうボードその他の ボード及び合板張り			
		※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。 ・ 注入口付アンカーピン	[4.3.5]			④ 錆止め塗料の種類			③ 点検口			
2	下地調整材	・タイル部分張替え工法	[4.4.7]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		張付け材料の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・外装タイル張り用有機系接着剤 ※JIS A 5557による一液反応硬化形成シリコーン樹脂系	[4.4.7]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・タイル張替え工法	[4.4.8]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		張付けモルタル ・現場調合モルタル ・既調合モルタル 伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地の位置 ※表4.4.2による ・図示 外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ・行う ・行わない ・セメントモルタルによるタイル張り タイル張りの工法 外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り ・有機系接着剤によるタイル張り ・下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ※目荒し工法	[4.4.8]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
③ 仕上塗材仕上げ	① 既存塗膜等の除去及び 下地処理	・目地ひび割れ部改修工法	[4.4.16]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・伸縮調整目地改修工法	[4.4.16]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		伸縮調整目地の位置及び寸法 ※図示	[4.4.16]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法	[4.5.4]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
③ 仕上塗材仕上げ	① 既存塗膜等の除去及び 下地処理	工法	[4.5.4]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・サンダー工法	※既存仕上面全体	・図示	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・高圧水洗工法	※既存仕上面全体	・図示	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・塗膜はく離剤工法	※既存仕上面全体	・図示	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
③ 仕上塗材仕上げ	① 既存塗膜等の除去及び 下地処理	※水洗い工法	※既存仕上面全体	・図示	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・他工法の処理範囲以外の既存仕上面全体	[4.5.4]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		石綿含有仕上塗材の除去は、環境配慮改修工事による。	[4.5.2～4.5.5]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		材料	※下地調整塗材 ※C-1 ・C-2 ・CM-1 ・CM-2 ・E ・ポリマーセメントモルタル ・合成樹脂エマルジョンシーラー 工法 ※製造所の仕様による	[4.5.2～4.5.5]			⑤ 塗装の種類			③ 点検口		
③ 仕上塗材仕上げ	① 既存塗膜等の除去及び 下地処理	薄付け仕上塗材	(15.6.2)(表15.6.1)			⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		呼び名	仕 上 げ の 形 状	工 法	備 考	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・外装薄塗材S1	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・可とう形外装薄塗材S1	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
③ 仕上塗材仕上げ	① 既存塗膜等の除去及び 下地処理	・外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凹凸状	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凹凸状	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・防水形外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・平たん状 ・凹凸状	・吹付け ・こて塗り ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・外装薄塗材S	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
③ 仕上塗材仕上げ	① 既存塗膜等の除去及び 下地処理	・内装薄塗材C	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・内装薄塗材L	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・内装薄塗材S1	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・内装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
③ 仕上塗材仕上げ	① 既存塗膜等の除去及び 下地処理	・内装薄塗材W	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・内装薄塗材W	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・内装薄塗材W	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			
		・内装薄塗材W	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け ・ローラー塗り	・	⑤ 塗装の種類			③ 点検口			

項 目		特 記 事 項																																																																																																																													
プール塗装改修工事																																																																																																																															
①	下地調整	○ (a) コンクリート製プールは塗装する10日以上前に排水し、塗装に悪影響を与えないように十分に乾燥させること。 ○ (b) 塗装されたコンクリート面、モルタル面、鉄鋼面、アルミニウム面、ステンレス面の下地調整の工法はRA種とする。なお、腐食による欠損や溶接部のひび割れ等がある場合の処理については監督職員と協議する。 コンクリート面、モルタル面、鉄鋼面、アルミニウム面、ステンレス面の下地調整の工程 <table><tr><th>下地調整の種別</th><th>工程</th><th>面の処理</th></tr><tr><td>RA種</td><td>既存塗膜の除去 汚れ、付着物の除去</td><td>ディスクサンダー、スクレーパー等により、塗膜及び錆等を全面除去する。</td></tr></table> ・ (c) 未塗装のコンクリート面、モルタル面は、高圧水洗機で水洗いし、十分に乾燥させる。 ・ (d) FRP面の下地調整は、全面にディスクサンダー又は他の研磨機を使用して粗面とした後、アセトン全面拭きとする。	下地調整の種別	工程	面の処理	RA種	既存塗膜の除去 汚れ、付着物の除去	ディスクサンダー、スクレーパー等により、塗膜及び錆等を全面除去する。																																																																																																																							
下地調整の種別	工程	面の処理																																																																																																																													
RA種	既存塗膜の除去 汚れ、付着物の除去	ディスクサンダー、スクレーパー等により、塗膜及び錆等を全面除去する。																																																																																																																													
②	材料	プール塗装塗り替え用材料は水質（学校環境衛生基準(文部科学省告示)に定める基準）に悪影響を与えない材料とする。また、防滑性を持たせるために塗装表面に混入する材料は、鋭利な角のない微細珪砂とする。																																																																																																																													
③	施工	(a) 施工前の水張り試験完了後、水の排水を行い、改修範囲の水洗いを行う。 (b) 施工に当たっては、塗装面、その周囲及び床等に汚染または損傷を与えないようあらかじめ塗装面所周辺に適切な養生をする。 (c) 塗り工程の種別は次の表による。なお、各工程の塗り付け量は製造所の仕様による。 <table><tr><th colspan="9">プール塗装塗り替え工法の種別</th></tr><tr><th rowspan="2">工程</th><th colspan="8">塗り工程の種別</th></tr><tr><th>アクリル樹脂系 塗料塗り替え</th><th colspan="4">エポキシ樹脂系 ＋ウレタン樹脂系 塗料塗り替え</th><th colspan="3">エポキシ樹脂系 ＋ふっ素樹脂系 塗料塗り替え</th></tr><tr><td></td><td>〈PA〉 ・</td><td>〈PEU〉-1 ○</td><td>〈PEU〉-2 ・</td><td>〈PEU〉-3 ・</td><td>〈PEF〉-1 ・</td><td>〈PEF〉-2 ・</td><td>〈PEF〉-3 ・</td><td></td></tr><tr><td>下地調整</td><td>RB種</td><td>RA種</td><td>RB種</td><td>RA種</td><td>RA種、RB種</td><td>RB種</td><td>RA種</td><td></td></tr><tr><td>補修塗り</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>下塗り</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>下塗り(2回目)</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>中塗り</td><td></td><td>○</td><td>厚膜</td><td>厚膜</td><td>○</td><td>厚膜</td><td>厚膜</td><td></td></tr><tr><td>中塗り(2回目)</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>上塗り</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>上塗り(2回目)</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>ライン塗り</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>プールの素材</td><td>コンクリート</td><td>コンクリート、7mm、 ステンレス、FRP</td><td colspan="2">鋼鉄</td><td>コンクリート、7mm、 ステンレス、FRP</td><td colspan="3">鋼鉄</td></tr></table> (注) 1. 〈PEU〉-1、〈PEU〉-2、〈PEU〉-3の中塗りまではエポキシ樹脂系塗料、上塗りやライン塗りはウレタン樹脂系塗料とする。 2. 〈PEF〉-1、〈PEF〉-2、〈PEF〉-3の中塗りまではエポキシ樹脂系塗料、上塗りやライン塗りはふっ素樹脂系塗料とする。	プール塗装塗り替え工法の種別									工程	塗り工程の種別								アクリル樹脂系 塗料塗り替え	エポキシ樹脂系 ＋ウレタン樹脂系 塗料塗り替え				エポキシ樹脂系 ＋ふっ素樹脂系 塗料塗り替え				〈PA〉 ・	〈PEU〉-1 ○	〈PEU〉-2 ・	〈PEU〉-3 ・	〈PEF〉-1 ・	〈PEF〉-2 ・	〈PEF〉-3 ・		下地調整	RB種	RA種	RB種	RA種	RA種、RB種	RB種	RA種		補修塗り	○		○			○			下塗り		○	○	○	○	○	○		下塗り(2回目)				○			○		中塗り		○	厚膜	厚膜	○	厚膜	厚膜		中塗り(2回目)			○	○		○	○		上塗り	○	○	○	○	○	○	○		上塗り(2回目)		○	○	○	○	○	○		ライン塗り	○	○	○	○	○	○	○		プールの素材	コンクリート	コンクリート、7mm、 ステンレス、FRP	鋼鉄		コンクリート、7mm、 ステンレス、FRP	鋼鉄		
プール塗装塗り替え工法の種別																																																																																																																															
工程	塗り工程の種別																																																																																																																														
	アクリル樹脂系 塗料塗り替え	エポキシ樹脂系 ＋ウレタン樹脂系 塗料塗り替え				エポキシ樹脂系 ＋ふっ素樹脂系 塗料塗り替え																																																																																																																									
	〈PA〉 ・	〈PEU〉-1 ○	〈PEU〉-2 ・	〈PEU〉-3 ・	〈PEF〉-1 ・	〈PEF〉-2 ・	〈PEF〉-3 ・																																																																																																																								
下地調整	RB種	RA種	RB種	RA種	RA種、RB種	RB種	RA種																																																																																																																								
補修塗り	○		○			○																																																																																																																									
下塗り		○	○	○	○	○	○																																																																																																																								
下塗り(2回目)				○			○																																																																																																																								
中塗り		○	厚膜	厚膜	○	厚膜	厚膜																																																																																																																								
中塗り(2回目)			○	○		○	○																																																																																																																								
上塗り	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																								
上塗り(2回目)		○	○	○	○	○	○																																																																																																																								
ライン塗り	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																								
プールの素材	コンクリート	コンクリート、7mm、 ステンレス、FRP	鋼鉄		コンクリート、7mm、 ステンレス、FRP	鋼鉄																																																																																																																									
④	水張り試験	試験回数 2 回（施工前・施工後） 施工前試験 施工前のプールは満水なので、その状態で水張り試験を行う。 施工前の水張り試験は次の方法により行い、試験結果を監督職員に報告する。 (a) 屋上プール等でプール下部及びプール側部に部屋等の空間がある場合 24時間以上の水張り試験を行い、水位の変化並びにプール下部及びプール側部からの目視による漏水箇所の有無を確認する。 (b) (a) 以外の場合 24時間以上の水張り試験を行い、水位の変化を確認する。 漏水があった場合は着色インク等を用いて漏水箇所を確認する。 (c) 漏水等があった場合は、補修方法等について監督職員と協議を行うこと。 施工後試験 水張り試験の水道料金は発注者負担とする。 ただし、漏水等により再試験となった場合は、当該水道使用料金を受注者負担とする。 施工後の水張り試験は次の方法により行い、試験結果を監督職員に報告する。 (a) 屋上プール等でプール下部及びプール側部に部屋等の空間がある場合 24時間以上の水張り試験を行い、水位の変化並びにプール下部及びプール側部からの目視による漏水箇所の有無を確認し、漏水がなければ合格とする。漏水があった場合は直ちに補修して再試験を行う。 (b) (a) 以外の場合 24時間以上の水張り試験を行い、水位の変化を確認し、漏水がなければ合格とする。 漏水があった場合は着色インク等を用いて漏水箇所を確認し、直ちに補修して再試験を行う。 (c) 再試験結果は、監督職員に報告する。																																																																																																																													
その他工事																																																																																																																															
①	プールサイド用 防滑性ビニル床シート	工法：接着工法 継目：メーカー仕様による 端部シーリング：メーカー仕様による t=2.9mm以上(屋外用、防滑性)(標準品)																																																																																																																													

劣化改修フロー及び数量									
○コンクリート打放し仕上げ外壁の場合									
外壁調査（施工数量調査） 旧仕上げの撤去 ・全面 ※図示 ひび割れ部改修 欠損部改修 樹脂注入工法[注1] A) m B) m C) m D) m Uカットシール材 充填工法 m シール工法 m 充填工法 0.1 m² 下地調整塗材 ・全面 ※図示 仕上塗材仕上げ ・全面 ※図示									
○モルタル塗り仕上げ外壁の場合									
外壁調査（施工数量調査） 旧仕上げの撤去 ・全面 ※図示 ひび割れ部改修 欠損部改修 浮き部改修 モルタル撤去 ○しない ・する 樹脂注入工法[注1] A) 90.0 m B) m C) m D) m Uカットシール材 充填工法 10.0 m シール工法 m 充填工法 0.1 m² モルタル塗替工法 m² カッター切り m 充填工法 m² カッター切り m モルタル塗替工法 m² カッター切り m アンカー・ベンディング注入工法 ○注入口付 部分エポキシ樹脂 一般部分 m² 指定部分 m² 狭幅部 m 全面エポキシ樹脂 一般部分 30.0 m² 指定部分 0.5 m² 狭幅部 0.1 m 全面ポリマーセメントスラリー 一般部分 m² 指定部分 m² 狭幅部 m 下地調整塗材 ・全面 ※図示 仕上塗材仕上げ ・全面 ※図示									
○タイル張り仕上げ外壁の場合									
外壁調査（施工数量調査） ひび割れ部改修 欠損部改修 浮き部改修 目地 目地ひび割れ 改修工法 m タイル撤去 ・しない ○する 樹脂注入工法[注1] A) m B) m C) m D) m Uカットシール材 充填工法 m タイル部分 張替え工法 0.1 m² カッター切り 1.6 m タイル 張替え工法 m² カッター切り m アンカー・ベンディング注入工法 ・注入口付 部分エポキシ樹脂 一般部分 m² 指定部分 m² 狭幅部 m 全面エポキシ樹脂 一般部分 m² 指定部分 m² 狭幅部 m 全面ポリマーセメントスラリー 一般部分 m² 指定部分 m² 狭幅部 m エポキシ樹脂 注入タイル固定 一般部分 m² 指定部分 m² 狭幅部 m （注1） ひび割れ幅(mm)が、A)0.2以上1.0以下、B)0.2以上0.3未満、C)0.3以上0.5未満、D)0.5以上1.0以下を示す A)は自動式低圧エポキシ樹脂注入工法を示し、 B)・C)・D)は手動式エポキシ樹脂注入工法、機械式エポキシ樹脂注入工法を示す。									

記事											高知市都市建設部公共建築課			
	①DAN① 段 建築設計事務所有限会社 〒781-0250 高知市瀬戸2-1-1 TEL&FAX 088-848-1286 高知県知事登録第831号 一級建築士 大臣登録第203220号 徳 廣 賢 一										係	係 長	課長補佐	課 長
											小野	笹岡	電山	松本
		作成	承認	工事名	青柳中学校プール改修工事	DETE	SCALE	図 番						
				図面名	改修特記仕様書（５）	2026. 9		A - 5						

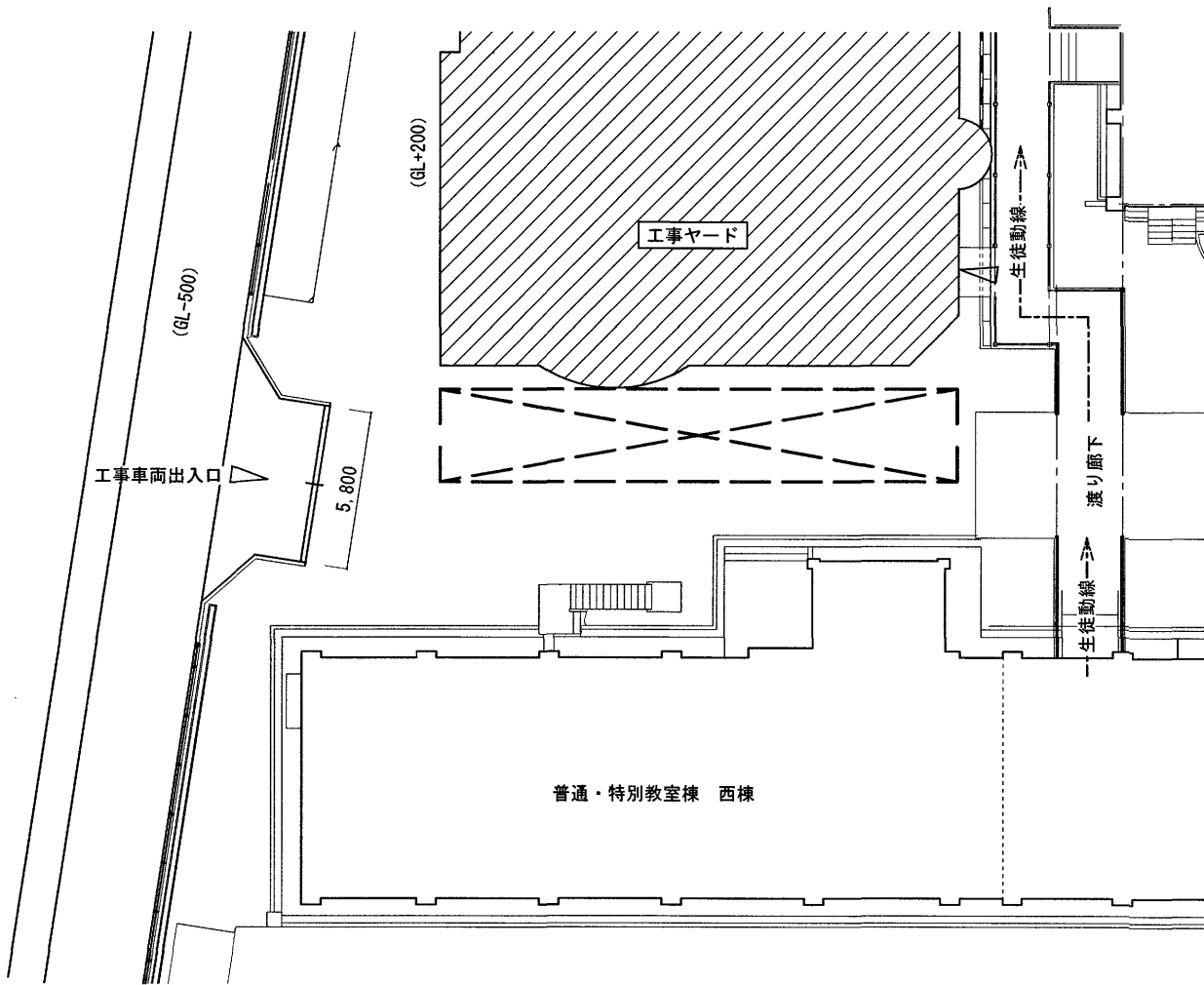


付近見取図

■ 工事概要

改修工事

- プールサイドの劣化改修、床シート新設及び手洗いの改修
- プール槽の塗装改修
- 付属棟の防水改修、鋼製手摺の塗装改修、内壁及び天井の塗装改修

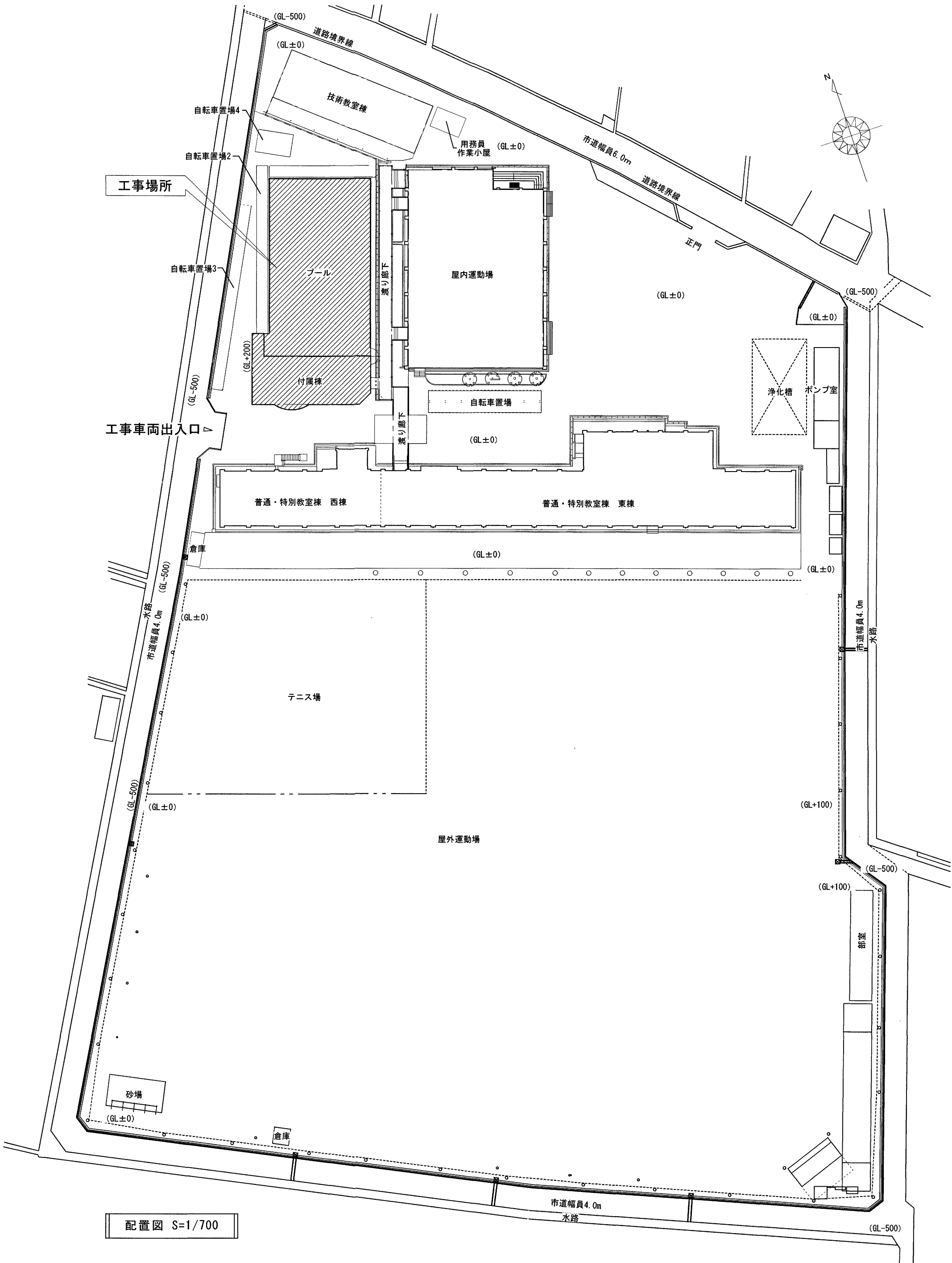


仮設計画図 S=1/400

《凡例》

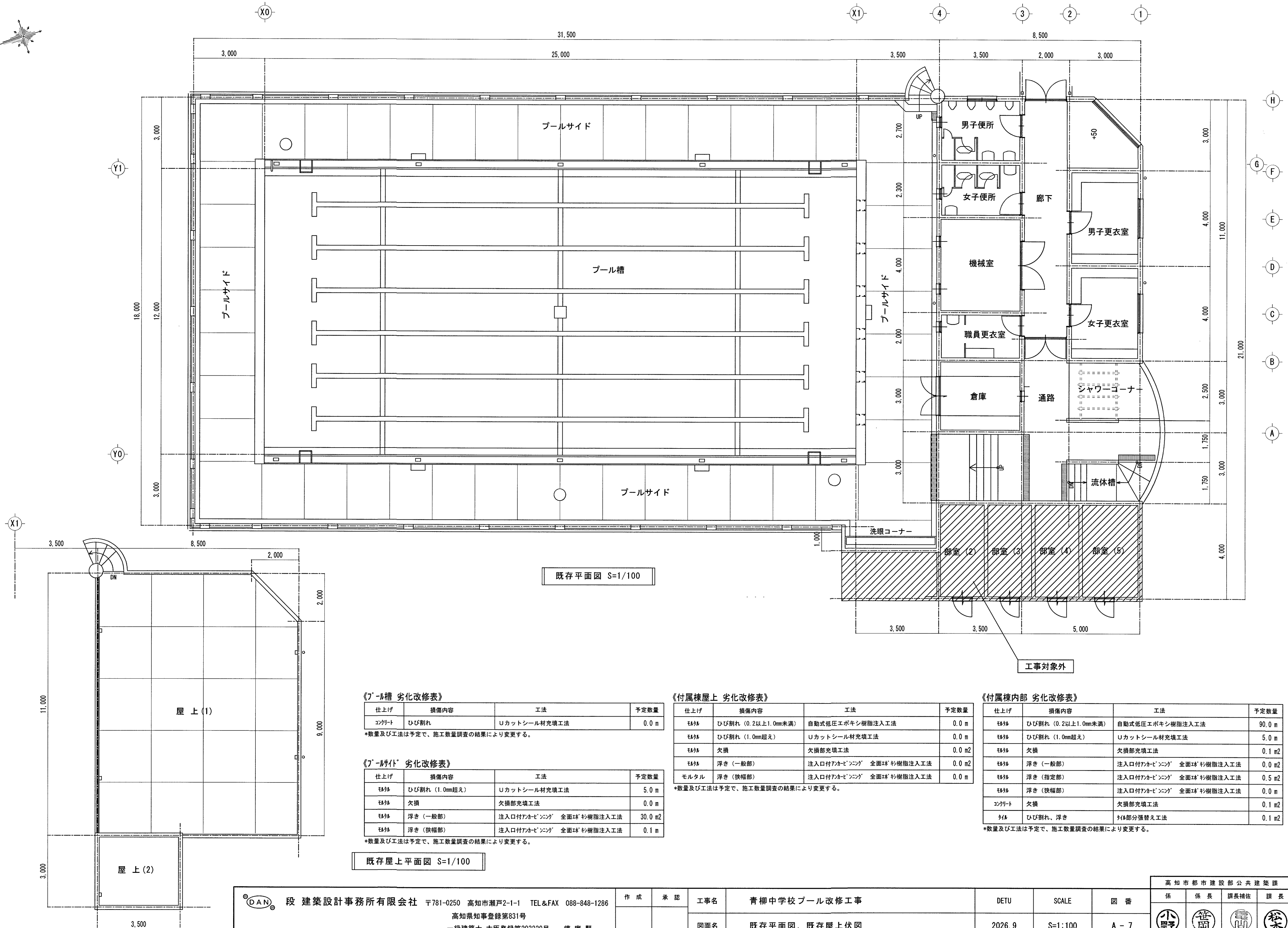
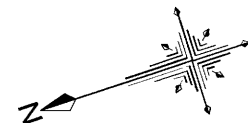


工事用車両置き場
※資機材については工事ヤード内に保管すること



配置図 S=1/700

記事		 段 建築設計事務所 有限会社	〒781-0250 高知市瀬戸2-1-1 高知県知事登録第831号 一級建築士 大臣登録第203220号	TEL&FAX 088-848-1286 徳 廣 賢 一	作成	承認	工事名	青柳中学校プール改修工事	DETU	2026.9	SCALE	S=1/400 S=1/700	図番	A - 6	高知市都市建設部 公共建築課			
							図面名	付近見取図、仮設計画図、配置図							係	係長	課長補佐	課長
																		



《プール槽 劣化改修表》

仕上げ	損傷内容	工法	予定数量
コンクリート	ひび割れ	リカットシーリング材充填工法	0.0 m

*数量及び工法は予定で、施工数量調査の結果により変更する。

《プールサイド 劣化改修表》

仕上げ	損傷内容	工法	予定数量
モルタル	ひび割れ (1.0mm超え)	リカットシーリング材充填工法	5.0 m
モルタル	欠損	欠損部充填工法	0.0 m
モルタル	浮き (一般部)	注入口付アクリル樹脂 全面珪矽樹脂注入工法	30.0 m ²
モルタル	浮き (狭幅部)	注入口付アクリル樹脂 全面珪矽樹脂注入工法	0.1 m

*数量及び工法は予定で、施工数量調査の結果により変更する。

既存屋上平面図 S=1/100

《付属棟屋上 劣化改修表》

仕上げ	損傷内容	工法	予定数量
モルタル	ひび割れ (0.2以上1.0mm未満)	自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.0 m
モルタル	ひび割れ (1.0mm超え)	リカットシーリング材充填工法	0.0 m
モルタル	欠損	欠損部充填工法	0.0 m ²
モルタル	浮き (一般部)	注入口付アクリル樹脂 全面珪矽樹脂注入工法	0.0 m ²
モルタル	浮き (狭幅部)	注入口付アクリル樹脂 全面珪矽樹脂注入工法	0.0 m

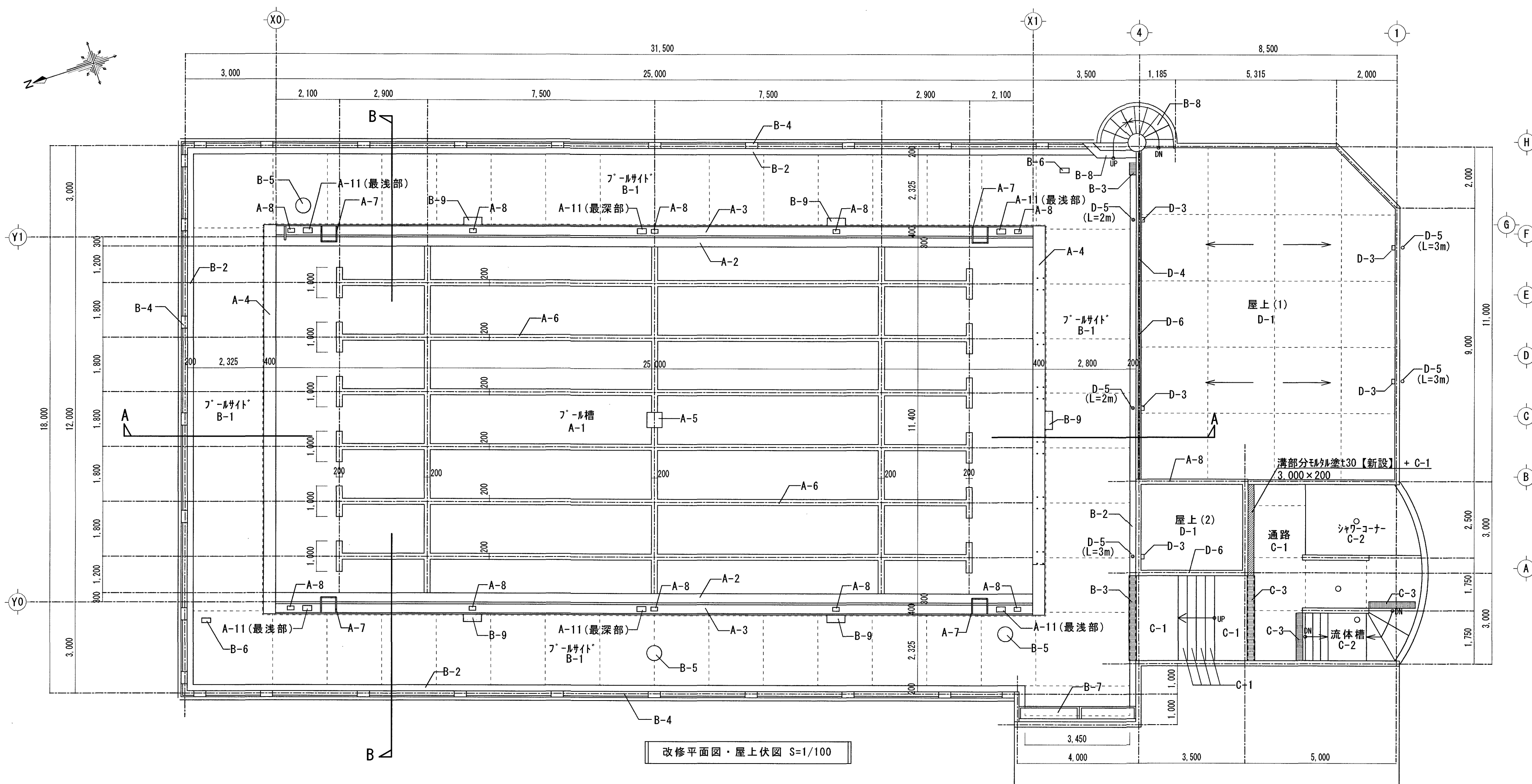
*数量及び工法は予定で、施工数量調査の結果により変更する。

《付属棟内部 劣化改修表》

仕上げ	損傷内容	工法	予定数量
モルタル	ひび割れ (0.2以上1.0mm未満)	自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	90.0 m
モルタル	ひび割れ (1.0mm超え)	リカットシーリング材充填工法	5.0 m
モルタル	欠損	欠損部充填工法	0.1 m ²
モルタル	浮き (一般部)	注入口付アクリル樹脂 全面珪矽樹脂注入工法	0.0 m ²
モルタル	浮き (指定部)	注入口付アクリル樹脂 全面珪矽樹脂注入工法	0.5 m ²
モルタル	浮き (狭幅部)	注入口付アクリル樹脂 全面珪矽樹脂注入工法	0.0 m
コンクリート	欠損	欠損部充填工法	0.1 m ²
タイル	ひび割れ、浮き	タイル部分張替え工法	0.1 m ²

*数量及び工法は予定で、施工数量調査の結果により変更する。

 段 建築設計事務所 有限会社 〒781-0250 高知市瀬戸2-1-1 TEL&FAX 088-848-1286 高知県知事登録第831号 一級建築士 大臣登録第203220号 徳 廣 賢 一	作成	承認	工事名	青柳中学校プール改修工事	DETU	SCALE	図 番	高知市都市建設部公共建築課			
			図面名	既存平面図、既存屋上伏図	2026.9	S=1:100	A - 7	係	係 長	課長補佐	課 長
											



改修平面図・屋上伏図 S=1/100

プール改修要領														
工事場所					工事場所					工事場所				
記号	部位	既存仕様	改修方法		記号	部位	既存仕様	改修方法		記号	部位	既存仕様	改修方法	
プール槽	A-1	床面	・既存〈PEU〉-1塗	→ 水洗い + 劣化改修 + 〈PEU〉-1塗【改修】	プールサイド	B-1	床 面	・既存タイル仕上げ 《凡例》 - - - 目地部 PU-2 10×10【新設】、プール槽廻り SR-1 20×10【再充填】	水洗い + 劣化改修 + 下地処理(※リセメントモルタル) + プールサイド用防滑性塩化ビニル床シート張り【新設】	通路 シャワーコーナー 洗体槽	C-1	床 面	・既存タイル仕上げ 《凡例》 - - - 目地部 PU-2 10×10【新設】	水洗い + 劣化改修 + 下地処理(※リセメントモルタル) + プールサイド用防滑性塩化ビニル床シート張り【新設】
	A-2	立上り面	・既存〈PEU〉-1塗	→ 水洗い + 〈PEU〉-1塗 (一部防滑仕上)【改修】		B-2	排水溝	・既存タイル仕上げ	水洗い + 劣化改修 + 下地処理(※リセメントベ-スト) + 塗膜防水【新設】		C-2	床 面	・既存タイル仕上げ	水洗い + 劣化改修 + 下地処理(※リセメントベ-スト) + 塗膜防水【新設】
	A-3	溝 (長辺方向)	・既存〈PEU〉-1塗	→ 水洗い + 〈PEU〉-1塗 (一部防滑仕上)【改修】		B-3	排水溝蓋	・塩ビ製グレーチング W250	【一時撤去 + 再設置】		C-3	排水溝蓋	・塩ビ製グレーチング W250	【既存のまま】
	A-4	スタート台 (短辺方向)	・既存〈PEU〉-1塗	→ 水洗い + 〈PEU〉-1塗 (一部防滑仕上)【改修】		B-3	排水溝	・既存タイル仕上げ	水洗い + 劣化改修 + 下地処理(※リセメントベ-スト) + 塗膜防水【新設】		C-3	排水溝	・既存タイル仕上げ	水洗い + 劣化改修 + 下地処理(※リセメントベ-スト) + 塗膜防水【新設】
	A-5	集水樹 (二重蓋共)	・既存〈PEU〉-1塗	→ 水洗い + 〈PEU〉-1塗【改修】		B-4	目隠フェンス	・重鉛めっき製 H=1.1m	【既存のまま】		C-4	巾木 H=200	・既存タイル仕上げ	水洗い + 劣化改修 + 下地処理(※リセメントベ-スト) + 塗膜防水【新設】
	A-6	コブスライ・ガラススライ・5mスライ・センタースライ	・既存〈PEU〉-1塗	→ 〈PEU〉-1塗【改修】		B-5	マンホール蓋	・鋳鉄製 (Φ600)	→ 【既存のまま】	C-4A	端部	・目地	→ MS-2 20×10【新設】	
	A-7	手摺リラック	・既存ステンレス製 無塗装	→ 【既存のまま】		B-6	散水栓蓋	・鋳鉄製 W150×L200	→ 【既存のまま】	屋上 (1) ・ 屋上 (2)	D-1	床面	・既存タイル仕上げ 《凡例》 - - - 目地部 PU-2 10×10【新設】	水洗い + 劣化改修 + 下地処理(※リセメントベ-スト) + 塗膜防水【新設】
	A-8	オーバーフロー溢水口蓋	・既存〈PEU〉-1塗	→ 水洗い + 〈PEU〉-1塗【改修】		B-7	洗眼シンク	・人研ぎ仕上【撤去】	→ ステンレス加工 L=3800 D=350 2槽分け【新設】		D-2	立上り面 H=200	・既存タイル仕上げ	水洗い + 劣化改修 + 下地処理(※リセメントベ-スト) + 塗膜防水【新設】
	A-9	コブスラフ 固定金具	・既存ステンレス製 無塗装	→ 【既存のまま】		B-8	階段 踏面 蹴上	・既存タイル仕上げ	水洗い + 劣化改修 + 下地処理(※リセメントモルタル) + プールサイド用防滑性塩化ビニル床シート張り【新設】		D-2A	端部	・目地	→ MS-2 20×10【新設】
	A-10	循環給水口	・既存ステンレス製 無塗装	→ 【既存のまま】		B-9	点検口蓋	・塩ビ製グレーチング W250×L300	→ 【一時撤去 + 再設置】		D-3	ルーフドレン	・鋳鉄製スローナー【撤去】	→ 防錆処理 (コルター・スロー) + 改修ドレン + 山高スローナー【新設】
	A-11	水深標示 (溝部分)	・ —	→ 260×90 〈PEU〉-1塗【改修】							D-4	手摺	・既存スチ-ル製 OP塗	→ SOP塗【塗替え】
	A-12	水深標示 (水中部分)	・ —	→ 470×70 〈PEU〉-1塗【改修】							D-5	壁樋	・塩ビ製φ100【撤去】	→ 塩ビ製φ100 (SUS製掘込み金物)【新設】
									D-6		笠木	・既存タイル仕上げ	水洗い + 劣化改修 + 下地処理(※リセメントベ-スト) + 塗膜防水【新設】	

The drawing shows two elevations of a bridge structure. The top elevation is the '東面' (East Elevation) and the bottom is the '西面' (West Elevation). Both show a bridge deck with a total width of 8,500 units. The '東面' shows a cross-section with a height of 880 units and a base width of 250 units. It includes labels for 'D-2A' and 'D-2' and a note 'コンクリート打放し【既存のまま】' (Concrete exposed finish [existing as is]). The '西面' shows a similar cross-section with a height of 880 units and a base width of 250 units. It also includes labels for 'D-2A' and 'D-2' and the same note. The drawing is a technical drawing of a bridge structure, showing the East and West elevations. The East Elevation (東面) shows a bridge deck with a total width of 8,500 units. The deck is divided into three sections: a left section of 1,185 units, a middle section of 5,315 units, and a right section of 2,000 units. The height of the deck is 880 units. The base of the bridge is 250 units wide. The drawing includes labels for 'D-2A' and 'D-2' and a note 'コンクリート打放し【既存のまま】' (Concrete exposed finish [existing as is]). The West Elevation (西面) shows a similar cross-section with a total width of 8,500 units and a height of 880 units. It also includes labels for 'D-2A' and 'D-2' and the same note. The drawing is a technical drawing of a bridge structure, showing the East and West elevations. The East Elevation (東面) shows a bridge deck with a total width of 8,500 units. The deck is divided into three sections: a left section of 1,185 units, a middle section of 5,315 units, and a right section of 2,000 units. The height of the deck is 880 units. The base of the bridge is 250 units wide. The drawing includes labels for 'D-2A' and 'D-2' and a note 'コンクリート打放し【既存のまま】' (Concrete exposed finish [existing as is]). The West Elevation (西面) shows a similar cross-section with a total width of 8,500 units and a height of 880 units. It also includes labels for 'D-2A' and 'D-2' and the same note.

東面

南面

西面

北面

東面

コンクリート打放し
【既存のまま】

コンクリート打放し
【既存のまま】

プールサイド

800
(160 × 5)

200

C-4

C-4A

200

シャワーコーナー

C-4A

C-4

3,500

2,000

3,000

▽通路FL

100

30

4

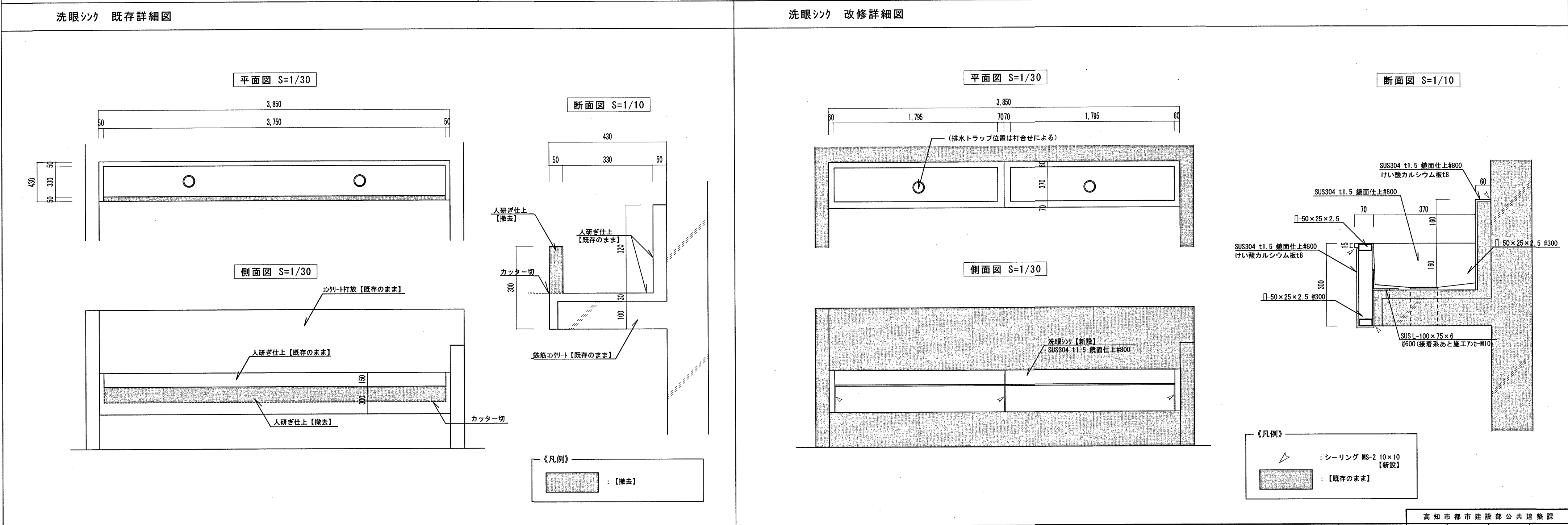
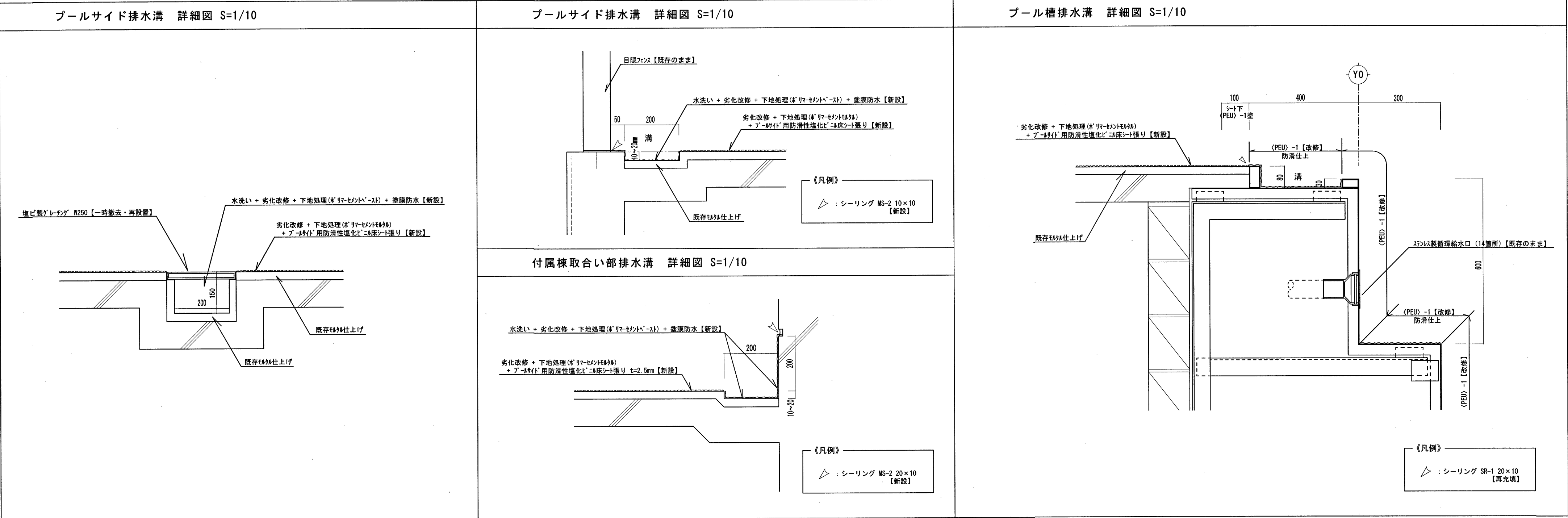
3

2

1

This diagram shows the elevation of the west side of the bridge deck. It includes the following details:

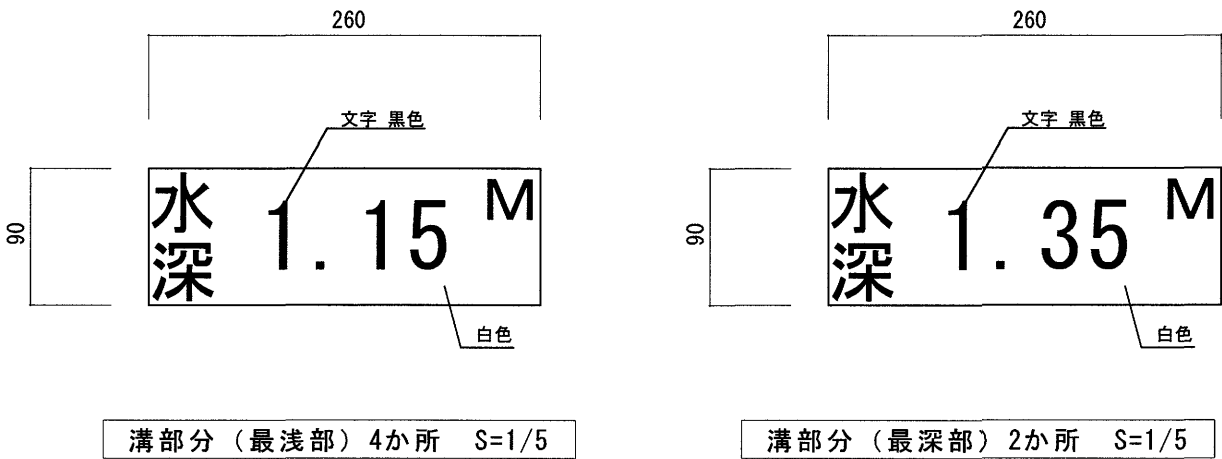
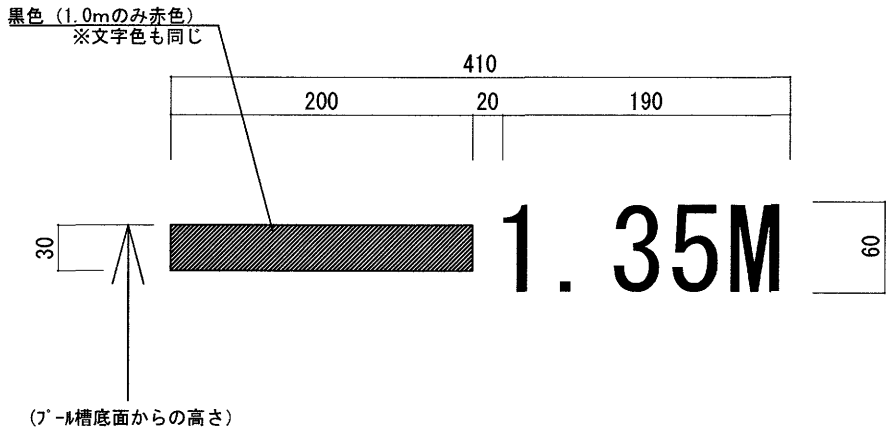
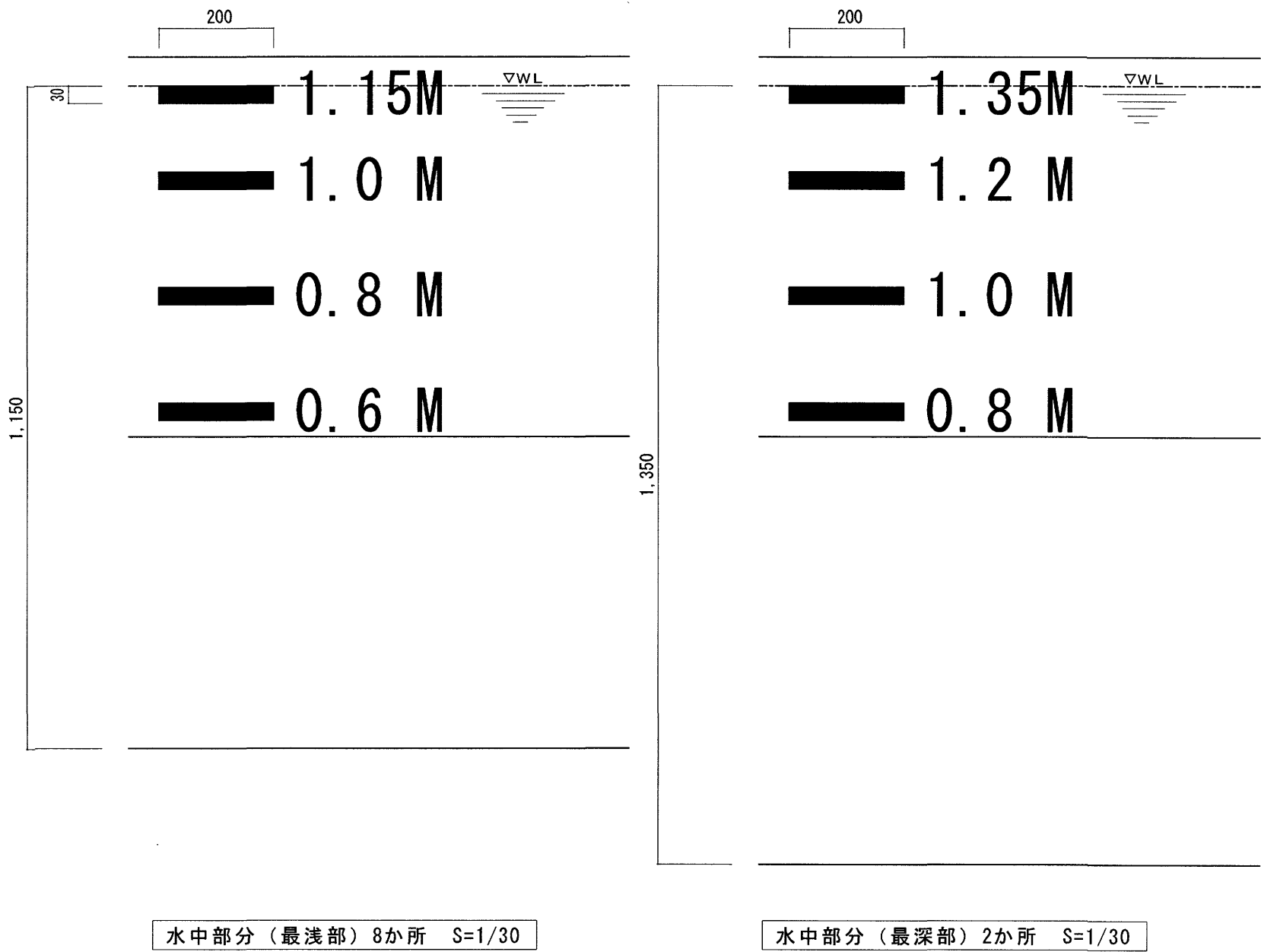
- Structure:** A concrete bridge deck with a sloped approach on the right side.
- Labels:**
 - コンクリート打放し【既存のまま】** (Concrete exposed surface [existing as is])
 - 流体槽** (Fluid tank)
 - C-4A** (Location of fluid tank)
 - C-4** (Location of fluid tank)
 - C-4** (Location of fluid tank)
 - プールサイト** (Pool site)
- Dimensions:**
 - Height:** 800 (multiple locations), 1,200 (300 x 4), 1,300 (300 x 4).
 - Width:** 985, 1,265, 750, 3,000 (250 x 3), 2,000, 3,500.
- Reference:** 道路E.L. (Road Elevation).



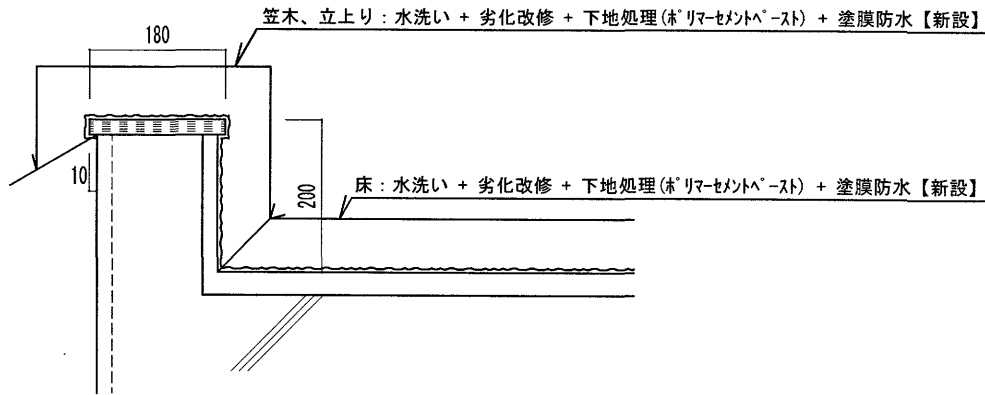
記事	塗膜防水の床面は、防滑仕上げとすること。				作成	承認	工事名	青柳中学校プール改修工事	DETU	SCALE	図番	係	係長	課長補佐	課長
	 段 建築設計事務所 有限会社	〒781-0250 高知市瀬戸2-1-1	TEL&FAX 088-848-1286	高知県知事登録第831号				2026.9	S=1:10 S=1:30	A - 11					
		一級建築士 大臣登録第203220号	徳 廣 賢 一												

水深標示 詳細図

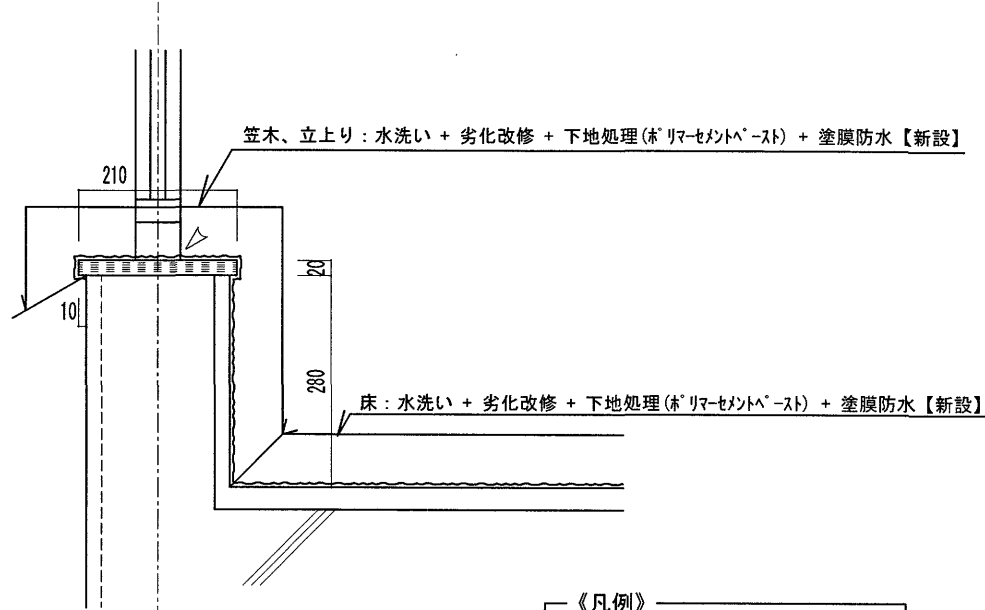
※ 水深標示位置及び記載する水深は、現地実測のうえ決定すること。



屋上（2） 詳細図 S=1/10

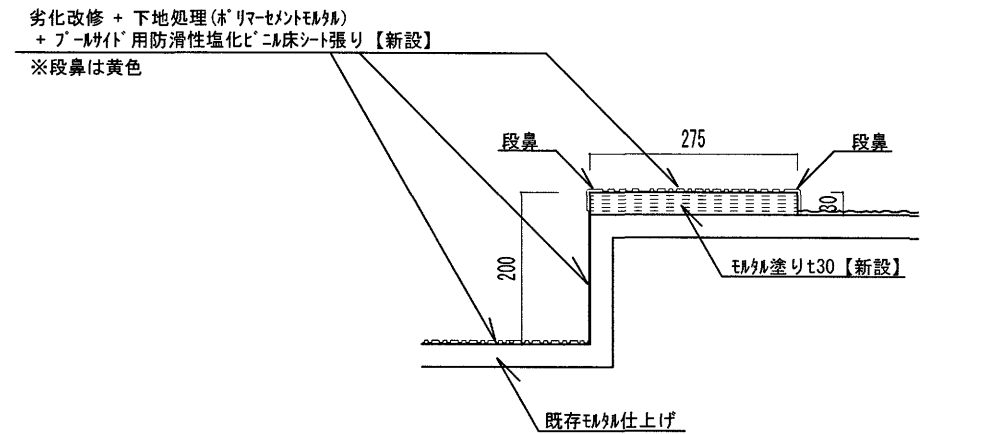


A 部 詳細図 S=1/10

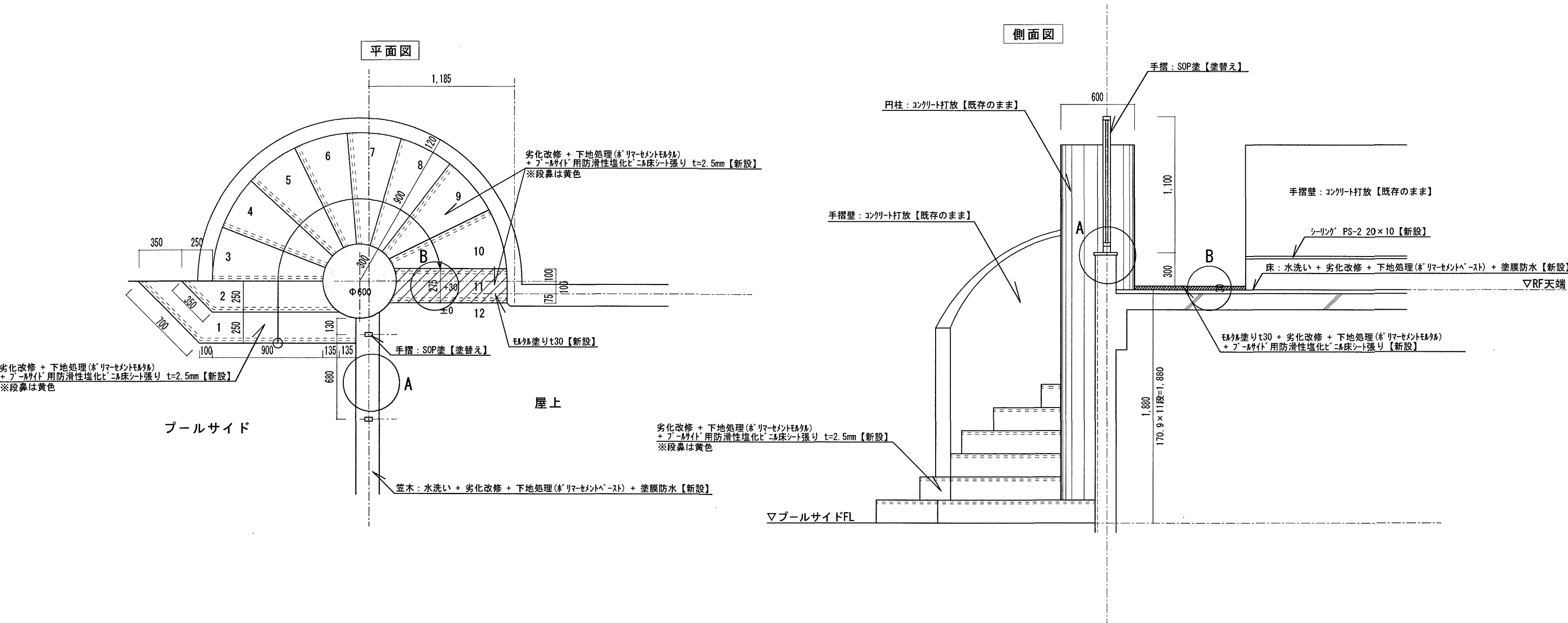


《凡例》
△ シーリング MS-2 10×10 【新設】

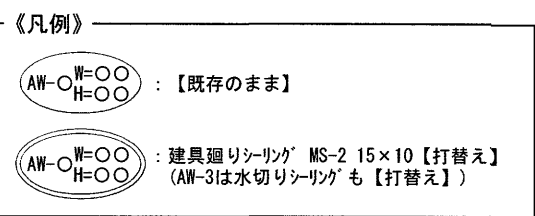
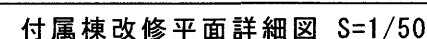
B 部 詳細図 S=1/10



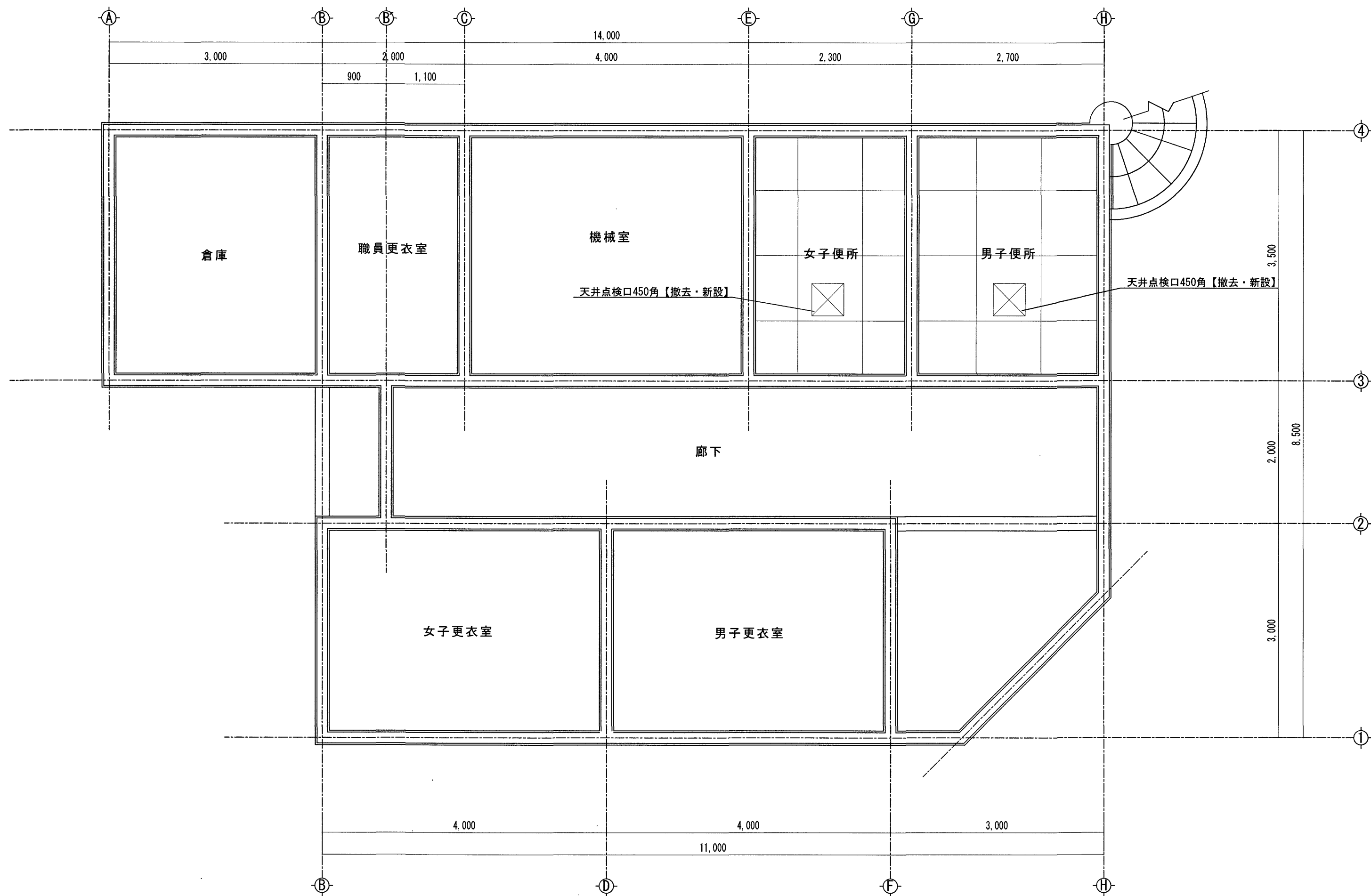
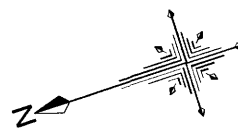
廻り階段 詳細図 S=1/30



記事	高知市都市建設部 公共建築課				高知市都市建設部 公共建築課				高知市都市建設部 公共建築課			
	塗膜防水の床面は、防滑仕上げとすること。	DAN	段 建築設計事務所 有限会社	〒781-0250 高知市瀬戸2-1-1 高知県知事登録第831号 一級建築士 大臣登録第203220号 徳 廣 賢 一	作成	承認	工事名	青柳中学校プール改修工事	DETU	SCALE	図 番	係
							図面名	《プール槽、屋上》部分詳細図	2026. 9	S=1:5, S=1:10 S=1:30	A - 12	小 里 子

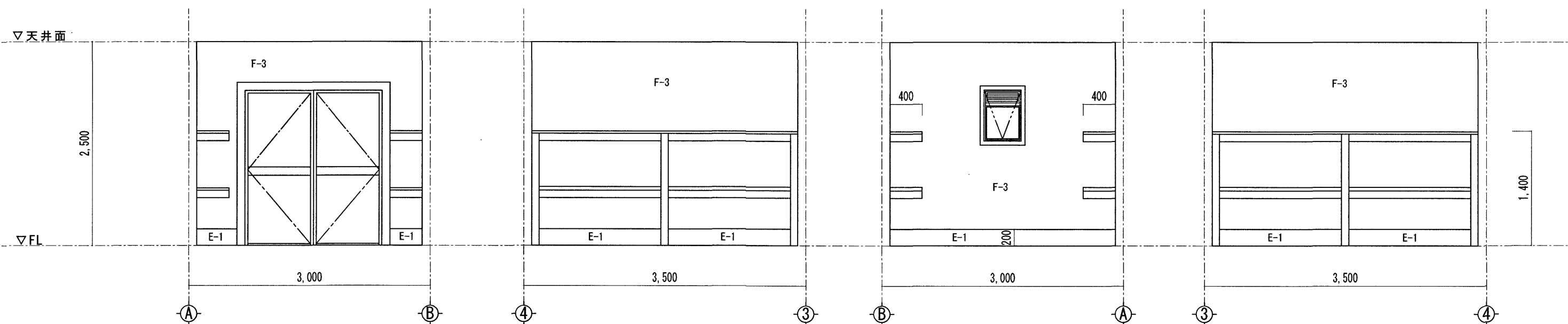


階	室 名	床		巾木(立上り)			壁			天井		その他
		(改修前)	(改修後)	(記号)	(改修前)	(改修後)	(記号)	(改修前)	(改修後)	(改修前)	(改修後)	
1	男・女更衣室	珪藻土塗り	【既存のまま】	E-1	珪藻土塗り H=200	劣化改修【改修】	F-1	珪藻土塗り + EP塗り	劣化改修 + EP-G塗【改修】	コンクリート打放 + アクリルシ	水洗い + 劣化改修 + 内装薄塗材E【改修】	・脱衣棚 H=1400 D=400【既存のまま】
	男・女WC	珪藻土塗り張り	【既存のまま】	F-2	100角珪藻土張り	劣化改修【改修】	F-1	上壁：珪藻土塗り + EP塗り	上壁：劣化改修 + EP-G塗【改修】	LGS下地 + 石膏ボード + EP塗り【下地共撤去】 塩ビ製廻り縁【新設】	劣化改修 + LGS下地 + けい酸珪藻土板 + EP-G塗【新設】	・トイレブース H=1900【既存のまま】
							F-2	腰壁：100角珪藻土張り	腰壁：劣化改修【改修】			
	機械室	珪藻土塗り	【既存のまま】	E-1	珪藻土塗り H=200	劣化改修【改修】	F-3	コンクリート打放	劣化改修【改修】	コンクリート打放	劣化改修【改修】	※ プール用機械があるため、必要な養生を行い施工すること。
	職員更衣室	珪藻土塗り 珪藻土塗り張り	【既存のまま】	E-1	珪藻土塗り H=200	劣化改修【改修】	F-1	珪藻土塗り + EP塗り	劣化改修 + EP-G塗【改修】	コンクリート打放 + アクリルシ	水洗い + 劣化改修 + 内装薄塗材E【改修】	・棚 W2950×H1800×D450【既存のまま】
							F-2	一部腰壁：100角珪藻土張り	一部腰壁：劣化改修【改修】			
倉庫	珪藻土塗り	【既存のまま】	E-1	珪藻土塗り H=200	劣化改修【改修】	F-3	コンクリート打放	劣化改修【改修】	コンクリート打放	劣化改修【改修】	・棚 H=1400 D=400【既存のまま】	
廊下	珪藻土塗り	【既存のまま】	E-1	珪藻土塗り H=200	劣化改修【改修】	F-1	珪藻土塗り + EP塗り	劣化改修 + EP-G塗【改修】	コンクリート打放 + アクリルシ	水洗い + 劣化改修 + 内装薄塗材E【改修】	・棚 W2950×H1800×D450 木目固定【一時撤去・再設置】 ・棚 W1200×H1800×D450 木目固定【一時撤去・再設置】 ・棚 W2700×H1800×D450 木目固定【一時撤去・再設置】	



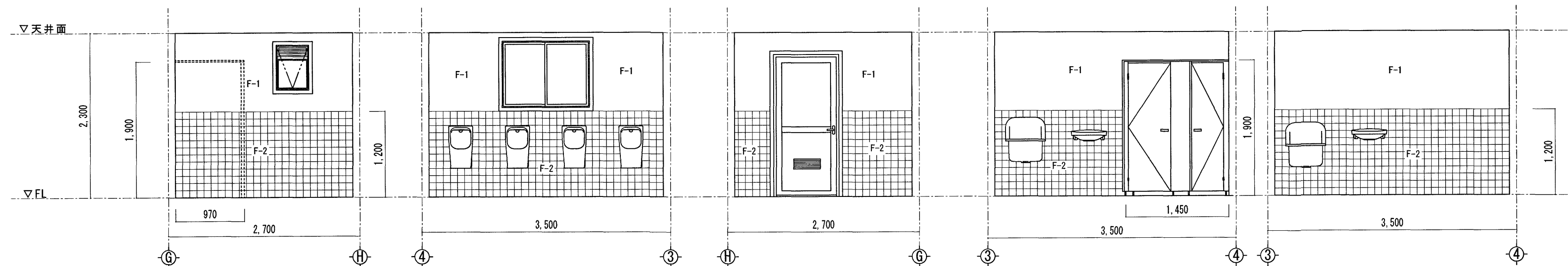
天井伏図 S=1/50

倉庫展開図 S=1:50

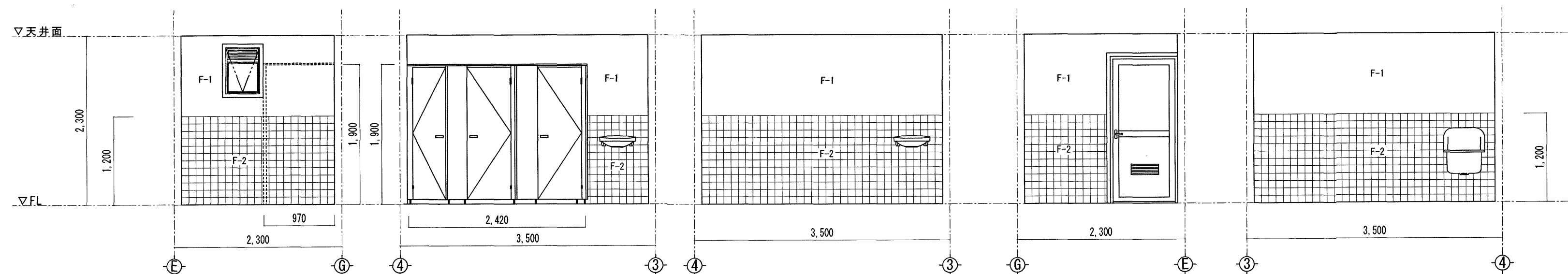


記事		DAN 段 建築設計事務所 有限会社 〒781-0250 高知市瀬戸2-1-1 高知県知事登録第831号 一級建築士 大臣登録第203220号 徳 廣 賢 一	作成	承認	工事名	青柳中学校プール改修工事	DETE	SCALE	図 番	高知市都市建設部 公共建築課			
					図面名	《付属棟》天井伏図、展開図 (1)				係	係 長	課長補佐	課 長
										小野	菅岡	山田	松本

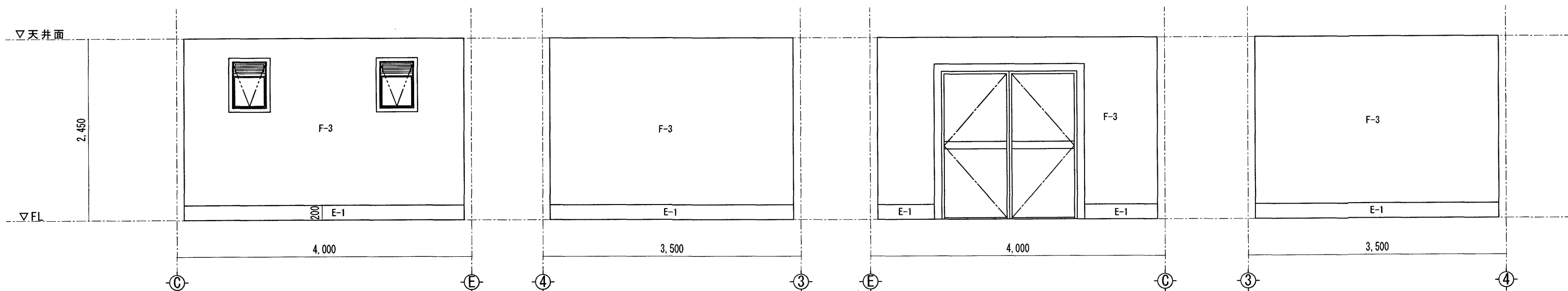
D



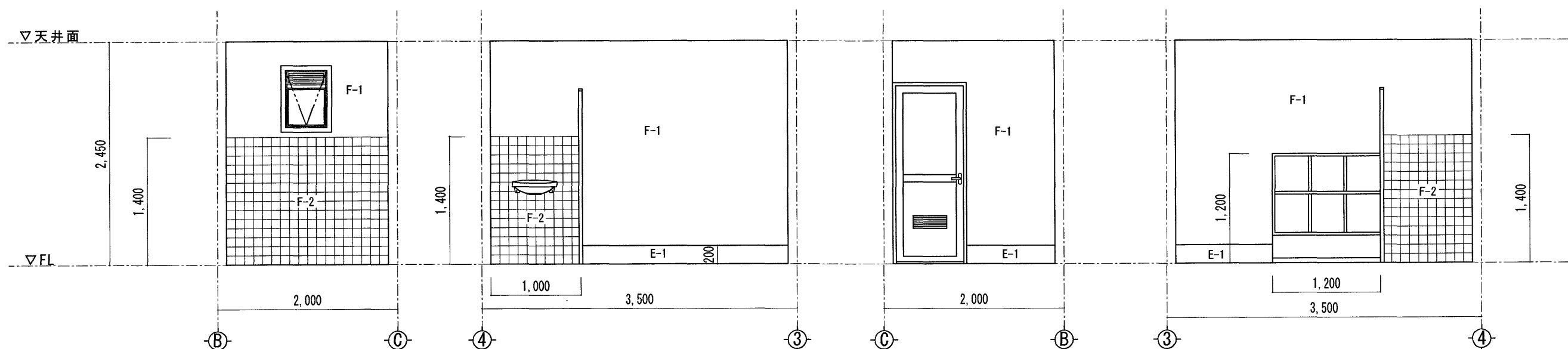
D



□



D



										高知市都市建設部公共建築課						
記事	DAN 段 建築設計事務所有限公司社 〒781-0250 高知市瀬戸2-1-1 TEL & FAX 088-848-1286 高知県知事登録第831号 一級建築士 大臣登録第203220号 徳 廣 賢 一					作成	承認	工事名	青柳中学校 プール改修工事	DETE	SCALE	図 番	係	係 長	課長補佐	課 長
								図面名	《付属棟》展開図（ ２ ）	2026. 9	S=1:50	A - 15				

